宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第242集

西都市所在

# 潮遺跡（うしお）・山之後遺跡（やまのうしろ）

一般県道札ノ元佐土原線（潮工区）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１７

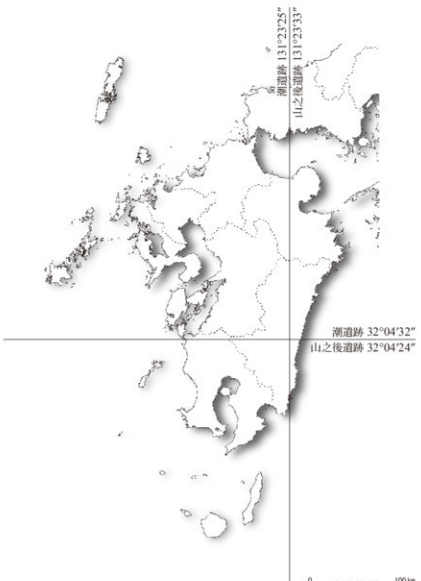
宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第242集

西都市所在

# 潮遺跡・山之後遺跡

一般県道札ノ元佐土原線（潮工区）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書




２０１７

宮崎県埋蔵文化財センター

# 序

宮崎県教育委員会では、一般県道札ノ元佐土原線（潮工区）の道路改良工事に伴い、西都市鹿野田に所在する潮遺跡と山之後遺跡の発掘調査を実施しました。本書は、その発掘調査の記録を掲載した報告書です。

今回報告する潮遺跡では、７世紀前半頃の土器を焼いたと思われる土坑から多くの土器が出土しました。また、この場所では、その後、丘陵斜面の崩落が発生したことによって流路が形成されたようで、当時の人々が場所を変えながら生活を行っていたことがわかりました。

もう一つの山之後遺跡では、古代から中世にかけての遺物が多く出土しました。特に古代の遺物の中には、当時の官営の建物で使用されたと思われる瓦が少数ながら出土しています。また、わずかに１点ながらも、官営工房などで出土する簀巻き状の工具で成形を行った鞴の羽口も出土しています。これらの遺物から、付近に何らかの官営施設があったと考えられます。一方、中世の時期には、多くの土師質土器が出土しており、この時期に人々の生活が活発であったことをうかがうことができます。

以上のように、両遺跡の調査では多くの成果を得ることができました。今回の調査で得られた成果は、今後、当地域の歴史を解明する上で、貴重な資料になるものと考えられます。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに報告書作成にあたって、御協力いただいた地元および関係諸機関の方々に心より厚くお礼申し上げます。

平成 29年11月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長　菅付和樹

# 例　言

1 本書は一般県道札ノ元佐土原線（潮工区）道路改良工事に伴い宮崎県教育委員会が実施した、宮崎県西都市鹿野田に所在する潮遺跡および山之後遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査は宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施し、潮遺跡の発掘調査を平成 27（2015）年12月14日から平成 28（2016）年２月２日まで、山之後遺跡の発掘調査を平成28（2016）年７月４日から同年９月８日まで行った。

3 発掘調査は潮遺跡を徳原宏樹・加藤徹、山之後遺跡を加藤徹・永野一美が担当した。現地調査における図面作成および写真撮影は調査担当者が分担して行った。

4 整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行い、本書に係わる業務については、整理作業員の協力を得て行った。

5 空中写真撮影業務は有限会社スカイサーベイ九州に委託した。

6 実測で使用した測量基準は、国土座標平面直角座標系第Ⅱ系（世界測地系）および東京湾海抜（T.P.）で、方位は座標北を指す。また、国土地理院発行地形図は真北を指す。

7 本書で使用した土層・土器等の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帳（2008年度版）』によるが、色調記号の記載がない場合はその限りではない。

8 石器石材については当センター赤崎広志普及資料課長に助言をいただいたが、誤りがあればそれは担当者の不学によるものである。

9 実測時の遺構・遺物の形状等を浄図した図に反映させる目的で、トレース時の線端が実測時の線に対応するように浄図を行った。なお、実測線とトーレス線の対応は下図の通りである。

10本書の執筆は第１章第１節を二宮、第１章第３節を徳原、その他の執筆及び全体の編集を加藤が行った。

11出土遺物およびその他の諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターにおいて保管している。

# 本 文 目 次

序
凡例
目次

第１章　調査に至る経緯と調査の経過
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査の組織 …… 1
第３節　調査の経過 …… 2

第２章　遺跡周辺の地理的・歴史的環境
第１節　遺跡周辺の地理的環境 …… 4
第２節　遺跡周辺の歴史的環境 …… 7

第３章　潮遺跡の調査成果
第１節　基本層序 …… 11
第２節　検出遺構 …… 12
第３節　出土遺物 …… 21
第４節　遺構と遺物の検討 …… 21

第４章　山之後遺跡の調査成果
第１節　基本層序 …… 25
第２節　検出遺構 …… 25
第３節　出土遺物 …… 31
第４節　遺構と遺物の検討 …… 38

第５章　総括
第１節　古代の社会について …… 41
第２節　中世の社会について …… 41

# 挿 図 目 次


図 1　潮遺跡・山之後遺跡周辺の地形分類図 …… 5
図 2　潮遺跡・山之後遺跡周辺地形図 …… 6
図 3　潮遺跡・山之後遺跡周辺の主要遺跡分布図 …… 8
図 4　潮遺跡調査区設定および遺構分布図 …… 11
図 5　潮遺跡土坑実測図 …… 13
図 6　潮遺跡溝状遺構平面図 …… 14
図 7　潮遺跡溝状遺構断面図 …… 15
図 8　潮遺跡自然流路・畝穴平面図1 …… 16
図 9　潮遺跡自然流路・畝穴断面図1 …… 17
図10　潮遺跡自然流路・畝穴平面図2 …… 18
図11　潮遺跡自然流路・畝穴平面図3 …… 19
図12　潮遺跡自然流路・畝穴断面図2 …… 20
図13　潮遺跡出土遺物実測図1 …… 22
図14　潮遺跡出土遺物実測図2 …… 23
図15　山之後遺跡土層堆積状況概念図 …… 25
図16　山之後遺跡調査区設定および遺構分布図 …… 26
図17　山之後遺跡検出遺構平面・断面図1 …… 27
図18　山之後遺跡検出遺構平面・断面図2 …… 28
図19　山之後遺跡検出遺構平面・断面図3 …… 29
図20　山之後遺跡出土遺物実測図1 …… 30
図21　山之後遺跡出土遺物実測図2 …… 31
図22　山之後遺跡出土遺物実測図3 …… 32
図23　山之後遺跡出土遺物実測図4 …… 33
図24　山之後遺跡出土遺物実測図5 …… 33
図25　山之後遺跡出土遺物実測図6 …… 33
図26　山之後遺跡出土遺物実測図7 …… 34
図27　山之後遺跡出土遺物実測図8 …… 34
図28　山之後遺跡出土遺物実測図9 …… 34
図29　山之後遺跡出土遺物実測図10 …… 35
図30　山之後遺跡出土遺物実測図11 …… 36
図31　山之後遺跡出土遺物実測図12 …… 37
図32　山之後遺跡出土遺物実測図13 …… 38

# 表目次

表１　潮遺跡・山之後遺跡周辺の主要遺跡 …… 9

附表１　潮遺跡遺構計測値一覧表 …… 43
附表２　山之後遺跡遺構計測値一覧 …… 43
附表３　表潮遺跡出土遺物観察 …… 43
附表４　山之後遺跡出土土器等観察表 …… 45
附表５　山之後遺跡出土土製品・石器観察表 …… 50

# 写真図版目次

図版１　山之後遺跡調査地付近上空からみた工区路線
図版２　１　潮遺跡調査地上空から北側を望む　２　潮遺跡調査区全景
図版３　１　潮遺跡土坑２遺物出土状況　２　潮遺跡自然流路１・２全景
３　潮遺跡竪穴４底面の木製品出土状況
図版４　１　潮遺跡土坑２検出状況　２　潮遺跡土坑２半裁状況
３　潮遺跡土坑１遺物出土状況　４　潮遺跡竪穴２土層断面
５　潮遺跡竪穴３土層断面　６　潮遺跡自然流路２検出状況
７　潮遺跡竪穴４遺物出土状況
図版５　１　山之潮遺跡調査地付近上空から南東方向を望む
２　山之後遺跡調査区全景
図版６　１　山之後遺跡土坑１・２検出状況　２　山之後遺跡土坑１・２完掘状況
３　山之後遺跡土坑３完掘状況　４　山之後遺跡土坑４遺物出土状況
５　山之後遺跡土坑４完掘状況　６　山之後遺跡土坑６完掘状況
７　山之後遺跡土坑７完掘状況　８　山之後遺跡土坑８完掘状況
図版７　１　潮遺跡出土遺物１　２　潮遺跡出土遺物２
３　潮遺跡出土遺物３
図版８　１　山之後遺跡出土遺物１　２　山之後遺跡出土遺物２
３　山之後遺跡出土遺物３
図版９　１　山之後遺跡出土遺物４　２　山之後遺跡出土遺物５
３　山之後遺跡出土遺物６
図版10　１　山之後遺跡出土遺物７　２　山之後遺跡出土遺物８
３　山之後遺跡出土遺物９
図版11　１　山之後遺跡出土遺物10　２　山之後遺跡出土遺物11

# 第１章　調査に至る経緯と調査の経過

## 第１節　調査に至る経緯

一般県道札ノ元佐土原線は、宮崎市佐土原町と西都市を結ぶ地域交通路であり、古来より内陸部と沿岸部の人と物資をつなぐ主要路として利用されてきた。しかし、東九州自動車道の西都ＩＣの開通等によって、西都市潮地区での交通量が近年増加しており、本線と直交する一般県道荒武新宮線の馬継谷交差点では通勤通学の時間帯を中心に交通渋滞が発生している。また、同地区内のカーブ区間では、過去に事故も複数回発生していることから、当該箇所において交通の円滑化を図ることは、急務の課題として取り上げられていた。そこで、宮崎県県土整備部西都土木事務所（以下、西都土木事務所）では、同地区のバイパス道路の整備を計画して実施することとなり、事業計画に先立ち新たな開発予定地における埋蔵文化財保護について、西都土木事務所から宮崎県教育庁文化財課（以下、文化財課）に対して照会があった。

事業予定地一帯は周知の埋蔵文化財包蔵地外であったが、一般県道札ノ元佐土原線が古来よりの主要路であることや中世城館である国史跡都於郡城へと続く一般県道荒武新宮線との交差点付近であることから、文化財課では詳細把握のために試掘調査による判断を必要とした。そこで、丘陵を挟んで南北に住宅地と水田として利用されている事業予定地に対して、平成 27 年 10 月に北側区域の７箇所、南側区域では平成 28 年３月に６箇所、同年８月に３箇所の計 16 箇所において試掘調査を実施した。急峻な地形である丘陵については調査対象外としたが、丘陵の南北にある水田部分に設定した試掘坑で、北側では古代の遺構・遺物が確認でき、南側では中世の遺物が集中して出土したことから、埋蔵文化財が顕著に残ることが明らかとなった。そして、この試掘調査の結果に基づき、西都市に対して「周知の埋蔵文化財包蔵地の新規発見」を平成 27 年 10 月 27 日及び平成 28 年４月 12 日付けで通知し、遺跡名については西都市と協議を行い、小字名から丘陵北側を「潮遺跡」、南側を「山之後遺跡」と呼称することとした。

文化財課では事業予定地のうち埋蔵文化財の存在を確認した地点の取り扱いについて、工事計画変更等の埋蔵文化財保護の方法を西都土木事務所と協議を行ったが、同地区のバイパス道路整備ができない状態では、交差点での交通の円滑化が図れず、また狭い県道でのカーブ区間の安全も確保できないことから、埋蔵文化財の現状保存は困難であるという結論に達したため、発掘調査による記録保存の措置をとることとなった。

「潮遺跡」は平成 27 年 11 月９日付け、「山之後遺跡」は平成 28 年４月８日付けで西都土木事務所長より文化財保護法第 94 条に基づく工事通知が提出され、それぞれ、平成 27 年 11 月 24 日付け、平成 28 年４月 27 日付けで発掘調査の指示に関する回答を宮崎県教育委員会教育長名で行った。発掘調査の実施については、宮崎県埋蔵文化財センターが担当し、「潮遺跡」は平成 27 年 12 月 14 日に、「山之後遺跡」は平成 28 年７月４日に着手した。

## 第２節　調査の組織

潮遺跡・山之後遺跡の発掘調査・整理作業および報告書作成に伴う体制は次の通りである。

**平成 27 年度　潮遺跡発掘調査**

| | |
|---|---|
| 所長 | 岩切　隆志 |
| 副所長兼調査課長 | 菅付　和樹 |

| | | |
|---|---|---|
| 総務課長 | | 上谷　政隆 |
| 総務課総務担当リーダー | 副主幹 | 安藤　忠洋 |
| 調査課調査第一担当リーダー | 主幹 | 松林　豊樹 |
| 調査課調査第一担当 | 主任主事 | 加藤　　徹　（調査担当） |
| 調査課調査第二担当 | 主査 | 徳原　宏樹　（調査担当） |

**平成 28 年度　山之後遺跡発掘調査、潮遺跡・山之後遺跡整理作業**

| | | |
|---|---|---|
| 所長 | | 谷口　武範 |
| 副所長兼調査課長 | | 菅付　和樹 |
| 総務課長 | | 荒木　智恵美 |
| 総務課総務担当リーダー | 副主幹 | 寺原　真由美 |
| 調査課調査第一担当リーダー | 主幹 | 松林　豊樹 |
| 調査課調査第一担当 | 主査 | 永野　一美　（調査担当） |
| 調査課調査第一担当 | 主任主事 | 加藤　　徹　（調査・整理作業担当） |

**平成 29 年度　潮遺跡・山之後遺跡報告書作成**

| | | |
|---|---|---|
| 所長 | | 菅付　和樹 |
| 副所長兼総務課長 | | 甲斐　久志 |
| 総務課総務担当リーダー | 副主幹 | 寺原　真由美 |
| 調査課長 | | 吉本　正典 |
| 調査課調査第一担当リーダー | 主幹 | 松林　豊樹 |

事業調整

| | | | |
|---|---|---|---|
| 平成 27 ～ 28 年度 | 宮崎県教育庁文化財課 | 主査 | 二宮　満夫 |
| 平成 29 年度 | 宮崎県教育庁文化財課 | 主査 | 甲斐　貴充 |

## 第３節　調査の経過

### （1）潮遺跡

潮遺跡の調査は、面積 400㎡を対象として、平成 27 年 12 月 14 日より調査区南側から表土掘削を開始した。試掘調査の結果を受け、基本土層のⅢ層を重機による掘削対象深度の目安とし 0.2ｍほど表土・耕作土を除去した。後世の削平のためか、調査区南側にはⅣ層は残存しておらず、試掘調査で確認されていた遺物包含層は、調査区北側に３分の１程度のみ残存する状況であった。また、北側に向かってなだらかに傾斜していたため、調査区北端では最大掘削深度は 0.6ｍほどまで下がった。

12 月 16 日より作業員を雇用し、掘削を開始した。調査は北側に残存していたⅣ層を作業員によって掘り下げ、Ⅴ層上面を精査し遺構検出を行った。また、周辺の水の流れ込みがあったため、調査区内に排水用の溝と集水升を設定し、水中ポンプでの排水を行ったものの、降雨後は北側 1/3 程の範囲で水が溜まった状態で、掘削作業が進まないことが度々あった。

Ⅳ層中の出土遺物は、古代の土器などが確認できた。遺構については、Ⅴ層上面で検出を行った後、土層観察用のベルトを設定し、掘り下げを行った。なお、土層観察時に一部、堆積について不

明瞭な遺構がみられたが、調査区外の南側にある丘陵地で同様の形状をもつ流路が確認できたため、地形の連続性や遺構の形状が同一であることから自然流路と断定し作業を進めた。その結果、土坑6基、溝状遺構3条を確認した。

適宜、実測図化作業、出土遺物の取り上げ、写真撮影等による記録作業を行った。平成28年2月2日から重機による埋戻しを行い、調査を終了した。

なお、平成28年1月4日に10m間隔でグリッドおよび座標(世界測地系)の設定を調査員が行い、平成28年1月26日に空中写真撮影を業務委託により行った。

（2）山之後遺跡

山之後遺跡の調査は、当初、排土を置く場所が確保できないため、調査対象範囲の北側半分を最初に行い、その後反転して南側の調査を行う予定であった。しかし、工期の都合等により、西都土木事務所との協議の結果、調査期間の途中で排土を調査区外に搬出して、南側まで調査区を広げることとなった。

まず、平成28年7月4日から5日にかけて、調査範囲の北半分を対象として重機による表土掘削を行った。重機による掘削は、文化財課の試掘調査を受けて、上部の3層分（Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ層）を対象とし、その厚さは0.5～0.6mである。続く7月6日より作業員を雇用して、Ⅵ層の掘り下げを開始し、7日には調査員で調査区グリッドの設定を行った。7月8日～14日は、雨天や、降雨により調査区内に水が溜まったことにより調査を行うことができなかった。7月26日～8月16日までⅦ層の掘り下げを行い、8月17日にⅨ層上面において遺構検出のための精査を行い、ピットや土坑等の遺構を検出した。その後、遺構の掘り下げおよび実測等を行った。

北側の遺構掘り下げと実測作業に並行して、8月18日～19日に重機とダンプによる排土の搬出および重機による南側の表土掘削を行い、8月22日から人力による南側の掘り下げを開始する。なお、北側の調査において、遺物はⅦ層を中心に出土していたため、南側の表土掘削はⅥ層までを対象とした。その厚さは0.8～1.0mである。その後、Ⅶ層の掘り下げを行い、9月1日に土坑6・7、2日に土坑8を検出するとともに、掘り下げおよび実測を行った。そして、9月5日に空中写真撮影を業務委託により行い、9月6日まで作業を行った。最後に、9月7日～8日にかけて、重機とダンプによる持ち出した排土の搬入および重機による埋め戻し等を行って調査を終了した。

# 第２章　遺跡周辺の地理的・歴史的環境

## 第１節　遺跡周辺の地理的環境

潮遺跡と山之後遺跡は西都市の南東部、宮崎市佐土原町および児湯郡新富町との境界に近い場所に位置している。西都市は宮崎県の中央付近に位置し、西側から、九州山地、段丘面、低地、そして日向灘という地形的な変化をしている。西部にそびえる九州山地は、白亜紀～古第三紀（1.5億年～2400万年前）に堆積した四万十累層群を基盤としており、その中を流れる一ツ瀬川がもたらす激しい浸食作用によって険しいＶ字谷を各所に形成している。そこから東へ向かうと、それまでの地形を形成していた四万十累層群から、中期中新世～後期更新世（1000万年～150万年前）に堆積した宮崎層群へと基盤が変化する。それとともに、標高200ｍ付近になると、傾斜も緩やかな平野部へと移行し、それまでの起伏の激しい渓谷に代わって、平坦面と崖面から構成される段丘地形がみられるようになる。

この段丘地形は、その形成時期から最高位段丘群（中期更新世中頃）、高位段丘群（中期更新世後半）、中位段丘群（後期更新世前半）、低位段丘群（後期更新世後半）の４群に分けられている（長岡ほか2010）。西都市内でもそれぞれの段丘面が確認できる。最高位段丘として、34万年前以前に形成されたと考えられる東原段丘・野尻段丘があり、それぞれ東原段丘が西都市東原の標高160～150ｍ付近、野尻段丘が西都市長谷観音の標高200～190ｍ付近に分布している。高位段丘として、24万年前頃に形成されたと考えられる茶臼原段丘があり、西都市茶臼原周辺の標高120～135ｍ付近を中心に分布している。続く中位段丘として、13万～７万年前頃に形成された三財原段丘・新田原段丘・西都原段丘がある。これらの段丘は標高20～120ｍの間に分布しており、平野部の広い範囲でみられる。西都市を代表する遺跡である古墳群も、茶臼原古墳群が茶臼原段丘上、新田原古墳群が新田原段丘上、西都原古墳群が西都原段丘上に位置するように、中位～高位段丘上に立地しているものが多い。その下位の標高10～50ｍ付近には、７万年～１万年前にかけて形成された岡富段丘など多くの低位段丘面がみられる。さらにそれ以降に形成された沖積低地・海岸低地などが一ツ瀬川下流域から海岸部にかけて展開しており、隆起の影響により段丘を形成している。

これらの段丘は、多くのものが西都市を流れる一ッ瀬川やその支流である三財川や三納川によって形成されており、西都市内だけでなく、一ツ瀬川を挟んで東側に位置する新富町側でも、各段丘面が発達している。これらの地形を形成する要因となった一ッ瀬川は、全延長は宮崎県内４位の91.3㎞、流域面積は宮崎県第５位の852㎢の二級河川である（宮崎県西都土木事務所2005）。この一ツ瀬川は、九州山地の市房山（標高1728.8ｍ）周辺の山地に源を発し、全延長の８割を占める九州山地内を蛇行しながら流れ、その途中で椎葉村や西米良村を通った後、西都市へ入る。市内では南東方向へと流れ、市街地付近で南、そして東へと大きく向きを変えながら市内を貫流している。その後、東側の新富町へと入り、さらに宮崎市佐土原町と境界を成すように流れ、終点の日向灘へと到達する。この河口付近では、昭和20年代に堤防が築かれるまでは、深い入り江を形成していた。一ッ瀬川の河口はこの入り江の奥に位置しており、入り江内の流れが速く、また深度も現在よりかなり深かった（宮崎県土木事務所2005）ようである。

潮遺跡・山之後遺跡は、日向灘沿岸部から直線距離でおよそ10㎞の内陸部にあたるが、標高は12ｍ前後とそれほど高くはない。地形的には、南東に位置する中位段丘面の三財原段丘面から北方向へと八手状に延びる丘陵の裾部に位置している。両遺跡はこの段丘面から延びる丘陵の南北裾にそれぞれ位置している。この丘陵の東側に三財川が流れているが、遺跡付近は、近年においても

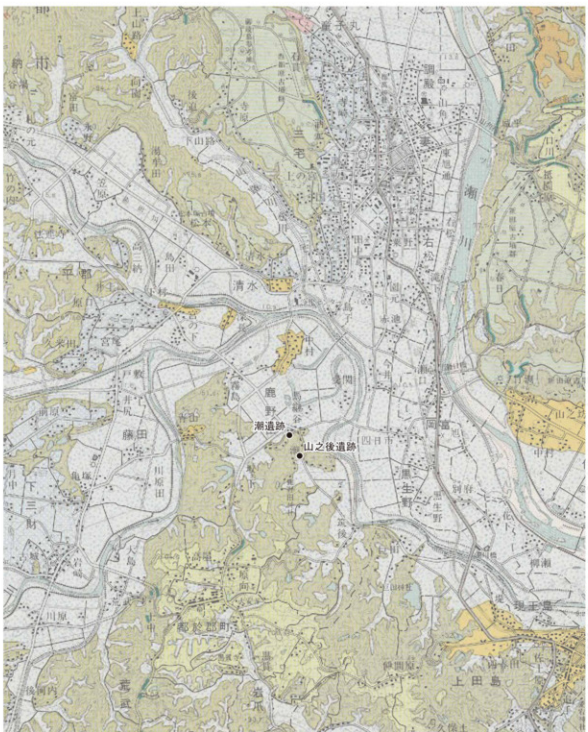



図１　潮遺跡・山之後遺跡周辺の地形分類図（S = 1/50,000、『地形分類図　妻・高鍋』を利用）

図２　潮遺跡・山之後遺跡周辺地形図（S = 1/3,000）

洪水等により河川が氾濫した際には、広い範囲で冠水するような氾濫原である。このような低地に位置し、また、周辺は水田として利用されていることからもわかるように、両遺跡ともに基本的に粘土質の土で排水が悪い。調査中も周辺の耕作地では降雨後は数日水が溜まったままの状態であることがあった。台地から延びる丘陵の北側に位置する潮遺跡は陽当たりが悪く、調査中も多くの時間で日陰となっていた。調査により想定される旧地形も谷部の出口付近であり、住環境としては適した環境とはいえなかったようである。一方の山之後遺跡は、丘陵の南側裾に位置し、また地形的にも南に開いているため、一日を通して陽当たりはよく、住環境としては潮遺跡よりも適している。ただし、後で述べるように、山之後遺跡の調査区の土層は粘土層であり、古くは低湿地的な自然環境であったようである。

## 第２節　遺跡周辺の歴史的環境

### 旧石器時代

西都市内で旧石器が確認された遺跡としては、これまでのところ、別府原遺跡・別府原第２遺跡・宮ノ東遺跡（宮崎県埋蔵文化財センター2002・2008）が知られている。別府原遺跡では、AT下位から石器が出土しており、西都市内でも最も古い時期の遺物となる。また、同遺跡では遺物だけでなく、AT下位から礫群などの遺構も確認されている。この別府原遺跡を含むその他の遺跡では、AT層上位の遺物や遺物も確認されている。

このように市内の遺跡は少ないが、東隣の新富町等では、東九州自動車道の建設に伴う発掘調査により、旧石器時代の遺跡が多くみつかっている。また、西都市在住であった故大野寅夫氏により採集された旧石器時代のものと考えられる遺物の採集地点は、市内18箇所に及んでいる（西都市2016）。このような資料や周辺の状況から、西都市内において今後も当該時期の遺跡は増えていくものと考えられ、潮遺跡・山之後遺跡付近の地域においても、２万年以上前から人々が広く活動していたのは確かである。

### 縄文時代

西都市内では、早期前半の貝殻文円筒土器や押型文土器が鴨目原遺跡や丸山遺跡（西都市教育委員会1989・1996・2006）において確認されているが、それよりも古い草創期の遺跡は未だ知られていない。早期に続く前期においても、若干の遺跡が確認されているが、その後の中期に属する遺跡はまだみつかっていない。後期・晩期においても、他の地域では遺物が多く出土しているものの、西都市内においてそれほど数は多くない。県内において、草創期以降多くの遺跡が確認されている状況とは対照的である。旧石器時代と同様に、新富町側ではこの時期の遺跡が多く確認できることから、調査がまだ及んでいないことが理由であり、今後の調査により次第に遺跡が増えていくことが予想される。

### 弥生時代

西都市内の弥生時代の遺跡は、県内の他の地域と同じく前期のものはほとんどないため、その様相は明らかではない。一方、中期では徐々に遺跡が増えていく。その中でも代表的なものとしては、環濠の可能性がある溝を有する下尾筋遺跡（西都市教育委員会1990）や松本原遺跡（西都市教育委員会2016）、いわゆる「花弁状住居」とよばれる間仕切りを有する竪穴住居（中期末頃）がみつかった緑ヶ丘遺跡（西都市2015）などがある。特に松本原遺跡では、中期中頃以降、外来系の土器などが多く出土している。このような集落でみつかる道具は石器が多く、鉄器の出土が少ないのは県内各地の状況と共通しており、古墳時代の新立遺跡においても石包丁が使用されている（西都

図3　湖遺跡・山之後遺跡周辺の主要遺跡分布図（S = 1/50,000）

表１　潮遺跡・山之後遺跡周辺の主要遺跡

| 番号 | 遺跡名 | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 古代 | 中世 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 潮遺跡 | | | | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 山之後遺跡 | | | | △ | ○ | |
| 3 | 中木遺跡 | | | ○ | | | |
| 4 | 上江横穴墓群 | | | | ○ | | |
| 5 | 岡横穴墓 | | | | ○ | | |
| 6 | 千畑古墳 | | | | ○ | | |
| 7 | 千畑横穴墓群 | | | | ○ | | |
| 8 | 穂北城跡 | | | | | | ○ |
| 9 | 茶臼原古墳群 | | | | ○ | | |
| 10 | 千田城跡 | | | | | | ○ |
| 11 | 宝財原遺跡 | | ○ | | | | |
| 12 | 丸山遺跡 | | ○ | ○ | | | |
| 13 | 西都原古墳群 | | | | ○ | | |
| 14 | 西都原西遺跡 | | | | | | ○ |
| 15 | 新立遺跡 | | | | ○ | | |
| 16 | 西都原遺跡 | | | ○ | | | |
| 17 | 男狭穂塚古墳 | | | | ○ | | |
| 18 | 女狭穂塚古墳 | | | | ○ | | |
| 19 | 鬼ノ窟古墳 | | | | ○ | | |
| 20 | 寺原遺跡 | | | | ○ | ○ | |
| 21 | 妻北遺跡群 | | | | ○ | ○ | ○ |
| 22 | 日向国府跡 | | | | | | ○ |
| 23 | 酒元遺跡 | | | | | ○ | |
| 24 | 原口遺跡 | | ○ | ○ | | | ○ |
| 25 | 伝日向国分尼寺跡 | | | | | | ○ |
| 26 | 上宮遺跡 | | | | ○ | | ○ |
| 27 | 日向国分寺跡 | | | | | | ○ |
| 28 | 下尾筋遺跡 | | | | ○ | | |
| 29 | 次郎左右衛門遺跡 | | | | | | ○ |
| 30 | 寺山遺跡 | | ○ | ○ | | | |
| 31 | 清水古墳群 | | | | | ○ | |
| 32 | 松本原遺跡 | | ○ | ○ | ○ | | |
| 33 | 松本古墳群 | | | | | ○ | |
| 34 | 松本塚古墳 | | | | | ○ | |
| 35 | 百塚原古墳群 | | | | | ○ | |
| 36 | 永野古墳群 | | | | | ○ | |
| 37 | 鴨目原遺跡 | | ○ | | | | |
| 38 | 平都古墳群 | | | | | ○ | |
| 39 | 前原古墳群 | | | | | ○ | |
| 40 | 前原遺跡 | | | ○ | | | |
| 41 | 亀塚古墳群 | | | | ○ | | |
| 42 | 城平 | | | | | | ○ |
| 43 | 川床遺跡 | | | | ○ | ○ | |
| 44 | 祇園原遺跡 | | | ○ | ○ | | |
| 45 | 新田原古墳群 | | | | ○ | | |
| 46 | 向原第１遺跡 | ○ | ○ | ○ | | | |
| 47 | 八幡上遺跡 | | | | ○ | ○ | |
| 48 | 銀代ヶ迫遺跡 | | | | ○ | ○ | |
| 49 | 藤山第１遺跡 | ○ | ○ | | | | |
| 50 | 有塚城跡 | | | | | | ○ |
| 51 | 宮ノ東遺跡 | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| 52 | 山ノ坊古墳群 | | | | | ○ | |
| 53 | 竹澄Ｃ遺跡 | | | | ○ | ○ | ○ |
| 54 | 都於郡城跡 | | | | | | ○ |
| 55 | 別府原第２遺跡 | ○ | | | | | |
| 56 | 別府原遺跡 | ○ | ○ | | | | |
| 57 | 平田迫遺跡 | | | | ○ | ○ | ○ |

※番号は図３の分布図に対応

市 2016)。生業については、石包丁も出土しているが、どの程度の稲作がどの程度の比率を占めていたのかは明らかでない。このような生活址の調査がある一方で、墓跡はほとんど見つかっていない。

### 古墳時代

弥生時代の間は少なかった遺跡の数も、古墳時代になると非常に多くなるが、そのほとんどは前方後円墳を中心とする古墳群である。市内では、九州でも最大級の古墳である男狭穂塚古墳・女狭穂塚古墳が築かれており、古墳時代の中期前半頃には一つの政治的な中心地としての役割を担っていたことは確かである。このほか、百塚原古墳群からは、国宝の金銅装馬具が出土したとされている。それ以外にも図３の分布図にみるように台地上には多くの古墳群をみることができる。このような古墳群の中にあって、西都原古墳群は質・量ともに代表的な古墳群であり、前半期を中心としながらも古墳時代のほぼ全期間を通して古墳が築かれている。

図３にみるように、多くの古墳が知られている一方で、当時生活していた人々の実際の様子がわかるような集落遺跡はあまり知られていない。その中にあって、新立遺跡（西都市教育委員会 1992）・松本原遺跡・宮ノ東遺跡では、竪穴住居跡等が多数みつかっており、松本原遺跡や宮ノ東遺跡の後期の住居跡では土器埋設炉など南部九州に特徴的な施設が確認されている。

### 古代

古代には、西都市内に地方行政の拠点である国府が置かれ、およそ８世紀～10 世紀までの 200 年の間続いている。また、国家的な宗教となった仏教の寺院として、国分寺と国分尼寺が設置されたが、この二寺も西都市内にあったと考えられている。このように地方の政治・宗教の中心的施設が位置しているように、現在の西都市街地付近が古代の日向国の社会における中心的な役割を担っていた。その一方で、現在のところ、上記の日向国府を含む妻北遺跡群・国分寺などの官営施設やその周辺の遺跡を除くと、当該時期の遺跡は比較的少ない。主立った遺跡としては、竪穴建物跡・掘立柱建物跡が多くみつかった西都原西遺跡や宮ノ東遺跡が知られている。このほか、西都市外に

なるが、南に位置する宮崎市佐土原町の平田遺跡（宮崎県埋蔵文化財センター2000）では、石帯や須恵器、瓦などが出土している。また、同じく佐土原町内には、国府に須恵器や瓦を供給したと考えられる下村窯跡群（佐土原町教育委員会1996・宮崎市教育委員会2008）などがあり、三財川の南岸地域には官営施設に関係するような遺跡が点在している。

**中世**

中世社会の様相は、その大部分は文献資料によっているが、その中にあって考古学的には、中世の遺跡は主に山城として確認されている。西都市内では、中世の日向一帯を支配した伊東氏の本城である都於郡城跡（西都市教育委員会2015）を最初にあげることができる。調査によって空堀や土塁、柱穴群などの多くの遺構が検出されており、城の構造などが明らかになっている。また、15世紀後半～16世紀前半頃の河南三彩貼付文壺をはじめとして、多くの輸入磁器類が出土しており、南方貿易が盛んであったことを示している。

都於郡城跡の他にも、代表的なものとして文献史料にも現れる穂北城跡や三納城などがある。この2つの城跡は発掘調査がおこなわれており、掘立柱建物跡等の遺構や、輸入陶磁器類を初めとする多彩な遺物がみつかっている。

**引用・参考文献**


西都市　2015『西都市史　資料編』
西都市　2016『西都市史　通史編』
西都市教育委員会　1986『西都市・遺跡詳細分布調査報告所』
西都市教育委員会　1989『鴨目原遺跡』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第7集
西都市教育委員会　1990『上尾筋遺跡　下尾筋遺跡』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第11集
西都市教育委員会　1992『新立遺跡』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第18集
西都市教育委員会　1996『西都原地区遺跡』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第22集
西都市教育委員会　2006『西都原地区遺跡Ⅱ』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第44集
西都市教育委員会　2015『国指定史跡　都於郡城跡』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第67集
西都市教育委員会　2016『西都原古墳軍研究所・年報　第30号　－松本原遺跡（松本原台地編）－』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第70集
佐土原町教育委員会　1996『下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉』
長岡信治・西山賢一・井上弦　2010「過去200万年間における宮崎平野の地層形成と陸化プロセス－海面変化とテクトニクスに関連して－」『地学雑誌』119号(4)、632-667頁
宮崎県　1982『土地分類基本調査　妻・高鍋地域』宮崎県農政水産部振興課
宮崎県　1998『宮崎県史　通史編　中世』
宮崎県西都土木事務所　2005『一ッ瀬川百科』
（PDF版　www.pref.miyazaki.lg.jp/kasen/shakaikiban/kasen/hitotsusehyakka.html）
宮崎県埋蔵文化財センター　2000『平田遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第29集
宮崎県埋蔵文化財センター　2002『別府原遺跡　西ヶ迫遺跡　別府原第2遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第61集
宮崎県埋蔵文化財センター　2008『宮ノ東遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第173集
宮崎市教育委員会　2008『下村窯跡群報告書Ⅱ〈遺物編〉』
宮崎地質研究会編　2013『宮崎県の地質フィールドガイド』、コロナ社

# 第３章　潮遺跡の調査成果

## 第１節　基本層序

調査区内の基本層序は次の通りである。

Ⅰ層：表土（耕作土）

Ⅱ層：灰～黄色細粒砂質粘土層

Ⅲ層：灰色粘土層

Ⅳ層：暗褐色粘土層（遺物包含層）

Ⅴ層：黄色粘土層（遺構検出面）

上記のとおり、表土を除くいずれの層も粘土を基本とする土である。Ⅱ～Ⅲ層は還元色を呈しており、後世の水田耕作などに伴う粘土層であると思われる。Ⅳ層は遺物包含層で、上下の層に比べ

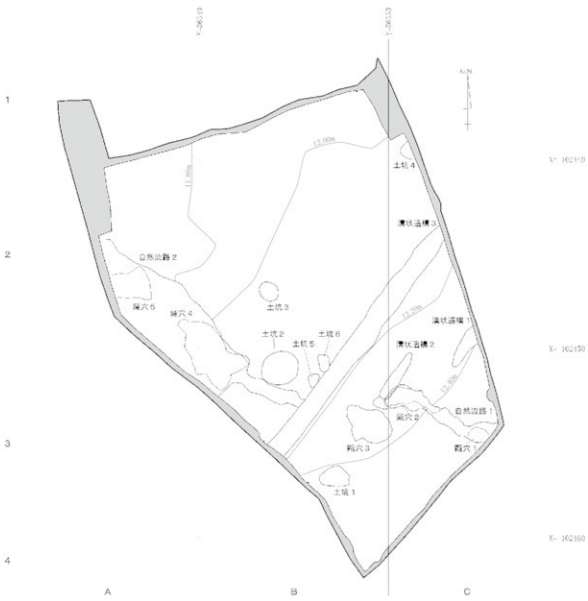



図４　潮遺跡調査区設定および遺構分布図（S = 1/200）

るとやや黒味を帯びて暗褐色を呈している。その下のⅤ層は、明るい黄色の粘土層である。土層の色調や様子などから、Ⅳ層が堆積する前後の時期において、それぞれ自然環境あるいは土地利用の変化があったことが考えられる。

## 第２節　検出遺構

潮遺跡の調査において検出した遺構として、土坑６基、溝状遺構３条がある。その他に、人の手による遺構ではないが、自然流路および甌穴を検出している。

（１）土坑（図５）

基本土層Ⅴ層上面において、５基検出している。

**土坑１**

調査区の南部で検出した遺構で、大きさは検出面で長軸1.63ｍ、短軸1.06ｍの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは５㎝と非常に浅く、上部の大部分は既に削平されていると考えられる。土坑内からは炭や土器片が出土しており、様相は土坑２に類似していることから、土器焼成土坑の可能性がある。遺物としては、土師質土器の細片のほか、検出面および埋土中から須恵器坏蓋（図13 - 24・25）が出土している。坏蓋は流れ込みと考えられるため、土坑の時期は不明であるが、雰囲気は土坑２に類似しているため、比較的近い時期のものと思われる。調査時の略号は「S1」である。

**土坑２**

調査区中央の西側の３Ｂ区北側で検出した遺構で、大きさは検出面でおよそ1.75～1.85ｍの円形を呈する。調査中の指示不足で、深く掘りすぎているが、土層を見る限りでは、検出面からの深さはおよそ12㎝である。遺物の出土状況や底部付近の土に炭を多く含んでおり、焼成土坑の可能性がある。焼成土坑の場合、自然流路２は近接した位置にあるため、両者が併存していたとは考えにくい。自然流路および甌穴の埋土には土師器や須恵器の細片が含まれることから、流路の方が新しいと考えられる。遺物は、土師器が多く出土している。時期は、土器の形態から７世紀前半頃と思われる。調査時の略号は「S2」である。

**土坑３**

調査区の中央付近の２Ｂ区南側で検出した遺構で、大きさは検出面で長軸1.10ｍ、短軸0.94ｍの楕円形を呈する。検出面からの深さはおよそ14㎝と浅い。遺物は埋土中から土器の細片（図13 - 13）が出土しているが、時期は不明である。調査時の略号は「S8」である。

**土坑４**

調査区北東部の１Ｃ区の南西端で検出した遺構で、東側半分は調査区外に広がっている。大きさは検出面で南北長0.88ｍ、検出面からの深さはおよそ14㎝で、他の土坑と同じく浅い。遺物は出土しておらず、時期は不明である。なお、調査時の略号は「S7」である。

**土坑５**

調査区中央付近の３Ｂ区北側で検出した遺構で、土坑２・６に隣接している。大きさは検出面で長さ0.77ｍ、幅0.54ｍの隅丸三角形状を呈する。検出面からの深さはおよそ25㎝と、他の土坑に比べるとやや深い。遺物は出土していないが、溝状遺構３を切っているため、それよりも新しい時期の遺構である。調査時の略号は「S5」である。

**土坑６**

調査区中央付近の３Ｂ区北側で検出した遺構で、土坑５に隣接しており、土坑５と同じく溝状遺

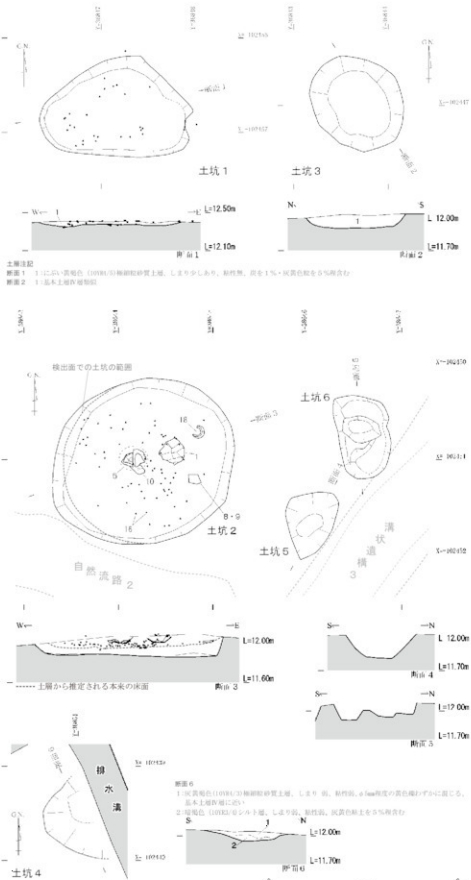



図５　潮遺跡土坑実測図（S = 1/40）

構３を切っている。大きさは検出面で長さ 0.88 m、幅 0.56 m で、平面形は隅丸長方形状を呈する。検出面からの深さはおよそ 17 ㎝で、底面には凹凸がみられる。遺物は出土していないが、溝状遺構３を切っているため、新しい時期のものであると考えられる。調査時の略号は「S4」である。

（2）溝状遺構

調査区南部を中心にして、北東 - 南西方向の向きに延びる３条の溝状遺構を検出している。

**溝状遺構１**

調査区の南東部、２～３Ｂ区で検出した東西に延びる溝で、東側は調査区の外へと延びている。検出面での長さは 1.90 m以上、幅 0.85 mで、検出面からの深さはおよそ 12㎝と浅い。遺物は

出土していない。調査時の略号は「SE1」である。

**溝状遺構２**

調査区の南側、３Ｂ～Ｃ区で検出した東西に延びる溝で、自然流路１・風穴３を切っている。検出面での長さ2.83ｍ、幅0.60ｍの大きさで、検出面からの深さは約６㎝ときわめて浅い。遺物は出土していない。調査時の略号は「SE4」である。

**溝状遺構３**

調査区の中央付近、２Ｃ～３Ｂ区にかけて検出した遺構で、両端はそれぞれ調査区外に延びている。幅は１ｍ前後、検出面からの深さは12～27㎝と幅があり、西半が深くなっている。また、西側の埋土は東側と異なり、灰色粘土ブロックが混じっているため、掘り直し、あるいは埋め戻して

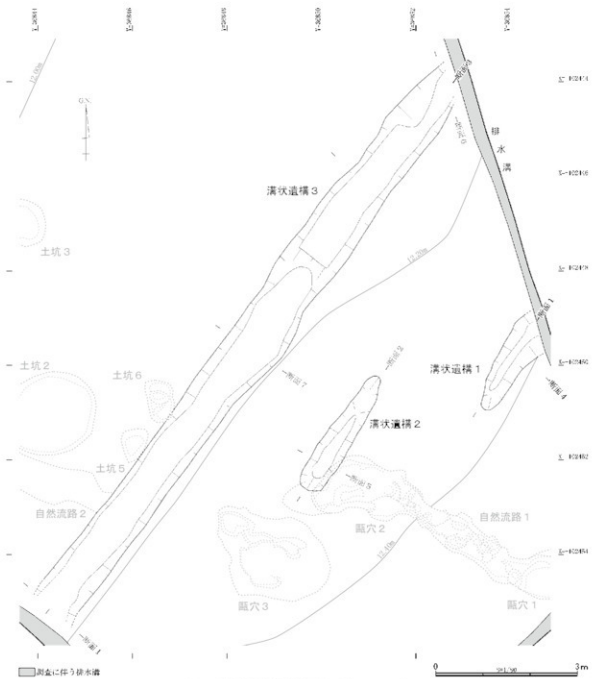



図６　潮遺跡溝状遺構平面図（S = 1/80）

図７　湖遺跡溝状遺構断面図（S = 1/40）

いる可能性がある。遺物は土器の細片が出土しているが、時期はあきらかでない。調査時の略号は「SE2」である。

（３）自然流路・凹穴

調査区の南部から東部において、溝状の凹みとその途中に土坑状の深い落ち込みを検出している。当初は粘土採掘のための遺構である可能性を考慮したが、流路の屈曲点に土坑状の落ち込みがみられる構造に類似した地形が、山側の谷筋において観察された[1]。そのため、これらの凹みと落ち込みは人為的な遺構ではなく、谷筋の自然流路とその中に形成された凹穴であると判断した。

**自然流路１**

調査区の南部で検出した南東から北西方向へと延びる流路で、凹穴１・凹穴２と、その間をつなぐ浅い溝で構成されている。流路は調査区外の南東方向へとさらに延びるものと考えられる。凹穴部を含む大きさは、検出面で長さ 6.50 m以上、幅が 0.35 ～ 1.13 m である。深さは浅い所で

図8　潮遺跡自然流路・土坑平面図1（S = 1/40）

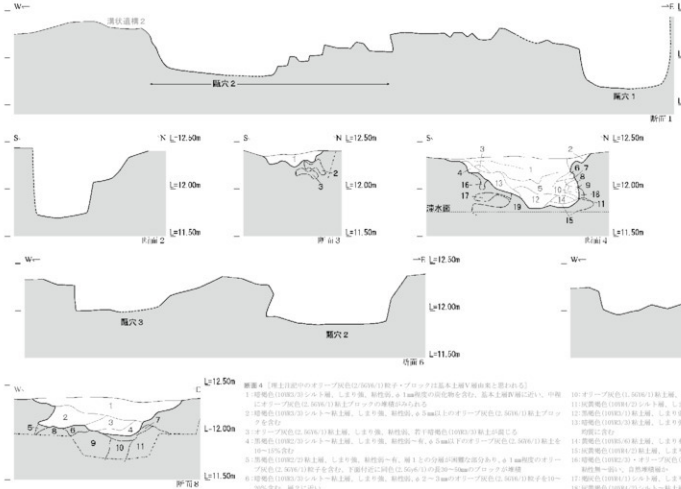



図 9　溝状遺構自然堆積・隅穴断面図 1　(S = 1/40)

土層注記
断面 3
1:暗褐色(10YR3/4)砂質粘土層、しまり強、黄色粘土を10%程度含む。
　基本土層IV層に近い。
2:にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土層、上層1cmにボールしまり弱、黄色粘土
　を5%程度・褐褐色をわずかに含む。
3:黄褐色(10YR5/6)粘土層、黄色粘土が混じる、しまり弱、褐褐色少
　量含む

断面 4　[埋土注記中のオリーブ灰色(2.5GY6/1)粒子・ブロックは基本土層V層由来と思われる]
1:暗褐色(10YR3/3)シルト層、しまり強、粘性弱、φ1mm程度の炭化粒を含む。基本土層IV層に近い、中程
　にオリーブ灰色(2.5GY6/1)粘土ブロックの堆積がみられる
2:暗褐色(10YR3/3)シルト～粘土層、しまり強、粘性弱、φ5mm以上のオリーブ灰色(2.5GY6/1)粘土ブロッ
　クを含む
3:オリーブ灰色(2.5GY6/1)粘土層、しまり強、粘性弱、若干暗褐色(10YR3/3)粘土が混じる
4:黒褐色(10YR2/3)シルト～粘土層、しまり強、粘性弱～有、φ5mm以下のオリーブ灰色(2.5GY6/1)粘土を
　10～15%含む
5:黒褐色(10YR2/2)粘土層、しまり強、粘性弱～有、層上との分層が困難な部分あり、φ1mm程度のオリー
　ブ灰色(2.5GY6/1)粒子を含む、下面付近に同色(2.5GY6/1)の長径5～50mmのブロックが堆積
6:暗褐色(10YR3/3)シルト～粘土層、しまり強、粘性弱、φ2～3mmのオリーブ灰色(2.5GY6/1)粒子を10～
　20%含む、層下2cmに炭化物層
7:オリーブ灰色(2.5GY6/1)粘土層、暗褐色(10YR3/3)土が混じる、φ1～5mmの黄褐色(10YR5/8)粒を含む
8:暗褐色(10YR3/3)シルト～粘土層、しまり強、粘性有、オリーブ灰色(2.5GY6/1)粒子を30%程度含む
9:黒褐色(10YR2/3)シルト～粘土層、しまり有、粘性弱、周辺の土層に比べて土まり非弱い
断面 5
1:黒褐色(10YR3/1)細粒砂層、しまり中強、粘性中有、褐色(10YR4/4)シルトを10%程度含む
2:暗褐色(10YR3/4)シルト～粘土層、しまり有、粘性強
3:黒褐色(10YR3/1)極細粒砂層、しまり有、粘性有
4:黒褐色(10YR3/1)シルト～粘土層、しまり強、粘性有
5:暗灰色(10YR4/1)シルト～粘土層、しまり強、粘性有、黄褐色(10YR5/8)細粒砂～シルトを1～5%含む
6:暗灰色(10YR4/1)シルト～粘土層、しまり強、粘性有、黄褐色(10YR5/8)細粒砂～シルトを5%程度含む
10:オリーブ灰色(1.5GY6/1)粘土層、しまり有、粘性有、黄褐色(10YR5/8)及び暗褐色(10YR2/3)土が混じる
11:灰黄褐色(10YR4/2)シルト層、しまり有（弱りよりも強）、粘性有、周りの土層に比べて粒子が粗い
12:黒褐色(10YR3/1)粘土層、しまり強、粘性強、不純物が少ない粘土層
13:暗褐色(10YR3/3)粘土層、しまり強、粘性強、φ2～10mmのオリーブ灰色(2.5GY6/1)粒子・ブロックを不
　均質に含む
14:黄褐色(10YR5/6)粘土層、しまり有、粘性強、上層12に比べしまりが強い
15:灰黄褐色(10YR4/2)粘土層、しまり有、粘性強、上層12に比べ10YR色が強い
16:暗褐色(10YR3/3)・オリーブ灰色(2.5GY6/1)・黒褐色(10YR3/2)が混じったたシルト～粘土層、しまり強、
　粘性弱～弱い、自然堆積層か
17:暗灰色(10YR4/1)シルト層、しまり有、粘性弱、自然堆積層か
18:灰黄褐色(10YR4/2)シルト～粘土層、しまり有、粘性強、オリーブ灰色(2.5GY6/1)が混じる
19:オリーブ灰(10YR6/1)粘土層、しまり有、粘性強、上層12に比べ10色調が全く異なる、上層はよりもし
　まりが強い

7:オリーブ黄色(5Y6/3)シルト～粘土層、しまり有、粘性弱、上部に上層4が10%程度混じる
8:暗灰色(10YR4/1)シルト～粘土層、しまり有、粘性有、黄褐色(10YR5/8)細粒砂～シルトを5%程度含む
9:緑灰色(10G5/1)粘土層、しまり強、粘性有、上部に上層4が10%程度混じる
10:灰色(5Y4/1)粘土層、しまり強、粘性有、他の土口混じらない
11:灰色(5Y4/1)粘土層、しまり強、粘性有、上部～中程に上層7が10～15%程度混じる

図 10　湖遺跡自然流路・土坑平面図２（S = 1/50）

図 11　潮遺跡自然流路・醗穴平面図３（S = 1/50）

図12　潮遺跡自然流路・瓢穴断面図２（S = 1/40）

およそ６cm、瓢穴部の深い所で70cm程である。瓢穴１・２の間の浅い部分は、平坦ではなく凹凸がみられる。瓢穴底部でみられる粘土は、この浅い溝の部分では確認できなかった。また、流路の流れは北方向と思われるが、短い溝部分の傾斜は南側が低くなっている。本流路は、瓢穴２の途中から向きを変えて西側へ延びており、本来はそのまま瓢穴３につながっていたものと思われる。遺物は土師器や須恵器片（図13 - 31・32）が出土しているが、細片が多く図化できるものは少ない。調査時の略号は「SE3」である。

**自然流路２**

調査区の東部で検出した流路で、南から北方向へと延びており、瓢穴４・５と浅い溝で構成されている。また、瓢穴４の南側では幅0.45 ～ 0.80 mと狭かった溝が、瓢穴４の付近から幅が広くなっている。瓢穴部を除いた部分は浅く、特に北側では検出面の直下が底部となっており、上部は削平されていると考えられる。また、流路１とは異なり底面の凹凸は少なく、横断面形も比較的緩やかな傾斜を示している。流路の向きなどから、本来は瓢穴３を経由して自然流路１につながっており、クランク状に屈曲した一連の流路であったと考えられる。調査時の略号は「S6」である。

**瓢穴１**

自然流路１の南端に位置する土坑状の凹みで、大きさは上面

で長さ0.80 m以上、幅0.81 m、深さはおよそ70㎝である。調査時の略号は、自然流路１の一部として調査したため「SE3」である。

**畝穴２**

自然流路１の北橋に位置する土坑状の凹みで、大きさは上面で東西の長さ約2.60 m、幅は南側の浅く狭い部分で0.32～0.45 m、北側の広く深い部分で1.35 m程で、深さはおよそ55㎝である。底面付近には青灰色の還元色を呈する粘土の単層がみられる。調査時の略号は、自然流路１の一部として調査したため「SE3」である。

**畝穴３**

畝穴２の西側に位置する土坑状の凹みで、大きさは上面で長さ約2.70 m、幅が約2.03 m、中央の落ち込み部分の上端で長さ約1.90 m、幅約1.38 mである。深さはおよそ40㎝で、畝穴２と同様に底面付近には粘土の単層がみられる。調査時の略号は「S3」である。

**畝穴４**

自然流路２の南側に位置する土坑状の凹みで、上面で長さが約4.05 m、幅が約2.10 mで、南側が低くなっており、深さはおよそ50㎝である。南端部は長さ約0.70 m、幅約1.00 mの範囲で、一段深くなっており、この部分の深さは検出面からおよそ70㎝である。

これまでの畝穴とは異なり、自然流路の進路はほとんど変わらずに北側に延びている。他の畝穴でみられるような攻撃壁と思われる抉りも顕著ではない。なお、本畝穴の底面から木製品（図14－37）が出土している。調査時の略号は自然流路一部として調査したため「S6」である。

**畝穴５**

自然流路２の北側に位置する土坑状の凹みで、西側調査区外へと延びている。大きさは、調査区内の範囲で長さ約1.85 m、幅1.85 mで、深さは約45㎝である。他の畝穴に比べると傾斜は緩やかである。調査時の略号は自然流路一部として調査したため「S6」である。

## 第３節　出土遺物

（１）土器類（図13）

１～20は土師器で、その多くが土坑２からの出土である。１は長胴気味の甕で、口径は胴部最大径よりも小さく、口縁は短く外反する。内面に粘土紐の接合痕を残す。２も１に類似した形態をもつ甕であるが、１は口縁部付近が完存に近い状態であることから別個体である。３・４は口縁部付近の小片であるが、「く」字状に短く屈曲しており、古手の様相を示す。５はバケツ状に開く形態の甕である。底部は明瞭な平底で、口縁は緩やかに開く。６・７はゆるかに開く形態をもつ甕の口縁部と思われる破片である。８・９は同一個体と思われる甕の破片で、注口を有する。５に似たようなバケツ状に開く形態と思われるが、底部内面はやや丸みを帯びる。10は底部付近と思われる胴部の破片である。11～14は底部破片である。

15～20は坏で、15・18は口縁部がわずかであるが外反している。

21～23は土師質土器の底部で、21は高台が付く。23は底部外周に粘土が付着して高台状を呈している。

24～32は須恵器で、遺構外出土のものが多い。24～27は坏蓋で、24・25・27は口縁部端部が短く屈曲している。24・25は同一個体と思われるが、歪んでいるためか、形状が若干異なる。26は摘みの破片で、24・25と同一個体の可能性がある。28～32は大型の甕の胴部と思われる破片である。

33・34は磁器で、いずれも表土出土である。33は龍泉窯系の青磁で、外面に連弁文がみられる。34は青花と思われる破片で、内面に圏線がみられる。外面にも文様がみられるが、細片のため全容は不明である。

図13　潮遺跡出土遺物実測図1（土器類　S＝1/4）

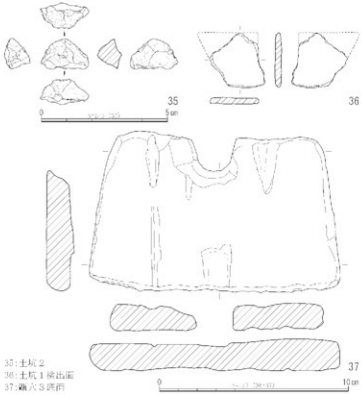



**図 14　潮遺跡出土遺物実測図２**（石器・鉄器・木製品）

（２）石器・鉄器・木製品（図 14）

35 はチャート製の火打ち石と考えられる石器で、稜線に使用によると思われるツブレがみられる。大きさは長さ 1.21㎝、幅 1.89㎝、厚さ 1.03㎝で、重さは 2.29 g である。36 は鉄片で器種は不明である。大きさは長さ 2.90㎝、幅 3.00㎝、厚さ 0.40㎝で、重さは 7.10 g である。37 は台形状を呈する木製品で、欠損はみられないため完形品と思われる。側面に加工痕が確認できるが、用途は不明である。正面・裏面には特に加工はみられない。大きさは長さ 8.6㎝、幅 13.3㎝、厚さ 1.7㎝で、図上辺の中央付近に長さ 1.7㎝、幅 2.3㎝程の抉りが入っている。

## 第４節　遺構と遺物の検討

潮遺跡で検出した遺構は、土坑２を除くとその時期は不明である。土坑２については、焼成土坑の可能性があることや、自然流路との位置関係および出土遺物から、自然流路が土坑２の後に形成されたものと考えられる。自然流路内の甌穴については、流路が斜面の崩壊などによってその進路を妨げられた際に発生する傾向にあることから、自然流路の東側には、南側の丘陵が現在よりも北側まで延びていたことを想定することができる。南側から丘陵が延びていたと仮定すると、溝状遺構はいずれも尾根があったと考えられる箇所に位置している事となる。自然流路および甌穴内からは、土師器あるいは土師質土器の細片や須恵器の細片は出土しているものの、陶磁器類はほとんど出土していない。丘陵が削平された時期は明らかではないが、中世の遺物はほとんど出土していない状況、および南側の丘陵裾付近では試掘調査の際に近世以降の土器が多く確認されていることから、近世以降と思われる。

次に土坑２から出土している遺物についてであるが、形がわかるものとしては甕や坏などが出土している。以下では今塩屋・松永編年（今塩屋・松永 2002）を参照しながらその帰属時期について考えてみる。図 13 － 1 の甕は、口径は胴部最大径よりも小さく、口縁は短く外反するが、内面に稜は形成していない。底部は欠失しているが、大きさ的には小型甕に該当すると考えられる。編年図上では、小型長胴甕 A1 型式あるいは小型球形甕 A3 もしくは A4 型式に該当するものと思われ、編年の７～８期に該当すると考えられる。次に図 13 － 5 は、バケツ状に口縁が大きく開く特徴的な形の甕で、このような甕は、今塩屋・松永編年の７期頃に出現するようである。編年図を参照すると、７期に位置付けてある Ca1 型式は「頸部のしまりがなく、口縁部は大きく外反して底部は平底」とされ、８期に位置付けてある Ca2 型式は「口縁部は端部がわずかに外反」し、「木葉底を有する脚台状の底部がつく」とされる。図 13 － 5 は比較的直線的な胴部や底部がわずかに脚台状を呈す

るため、８期のCa2に近い形態と考えられる。

最後に破片であるが数量的にやや多く出土している坏についてみてみる。坏は底部が欠損しているものが多いが、図13-15は丸底のようであり、その他のものも径や器高から丸底が想定される。坏類については、今塩屋・松永編年によれば、編年９期には平底化するとされる。また、前段階である編年８期には、口縁端部が外反する「坏Ａ類」や内湾する「坏Ｂ類」よりも、口縁が直立する「坏Ｃ類」や平底で口縁が直立～外反気味の「坏Ｄ類」が量的に主流をしめるようになる。図13-15・18は口縁端部がわずかに凹んで「坏Ａ類」様を呈しているものの、その他は直立的であり、「坏Ｃ類」が多くを占めているといえる。このような様相から、坏類は今塩屋・松永編年の８期的な様相ということができる。

以上のような土器の形態から、土坑２の出土遺物は今塩屋・松永編年の８期に該当するものと考えられる。したがって、土坑２は７世紀前半頃の遺構と考えられる。位置的には、土坑２は尾根部にあたると思われるため、段状にカットするなどして土坑を掘り込んでいる可能性があるが、上部が大きく削平されているため不明である。

土坑１については、歪みのためにやや形状が異なっているが、同一個体と思われる坏蓋（図13-24・25）が出土している。口縁端部は「Ｌ」字状に短く屈曲している。また、図13-26の摘みも同一個体の可能性があるが、扁平で上部はわずかに凹む形態である。このような形態から、８世紀前半頃のものと考えられる。須恵器は流れ込みであり、土坑も浅く残りが悪いものの他に時期を示すような遺物はないが、７世紀前半～８世紀前半頃の間のものと思われる。位置的には谷底にあたると思われる。

自然流路と畝穴については、埋土中の低いレベルから土師器あるいは土師質土器や須恵器の細片が出土している。上部で陶磁器類などは出土していないため、古代の間に埋没したものと思われる。畝穴３の底面からは木製品が出土しているため、流路は自然のものであるが、当時の人々がこの流路・畝穴を利用していた可能性が考えられる。畝穴の底部には混入物の少ない粘土が堆積しており、粘土の採取を行っていた可能性もある。

以上のように、潮遺跡において、古墳時代の終わり頃から古代にかけての遺構として、土坑１・２と自然流路・畝穴があり、その他の溝状遺構や土坑は近世以降の所産であると考えられる。

**註**

（１）畝穴の形成過程については、当センターの赤崎普及資料課にご教示いただいた。

**引用・参考文献**

今塩屋毅行・松永幸寿　2002『日向における古墳時代中～後期の土師器 - 宮崎平野部を中心にして - 』『第５回九州前方後円墳研究会　古墳時代中・後期の土師器 - その編年と地域性 -　発表要旨資料』、九州前方後円墳研究会、145-173頁

佐土原町教育委員会　1996『下村窯跡群報告書（基礎資料編）』、佐土原町教育委員会

宮崎市教育委員会　2008『下村窯跡群報告書Ⅱ（遺物編）』

# 第４章　山之後遺跡の調査成果

## 第１節　基本層序

山之後遺跡の基本層序は次の通りである。なお、発掘調査時および注記には文化財課が行った試掘調査時の層番号を使用している。そのため、今報告ではⅢ・Ⅳ・Ⅷ層は欠番となっている。

Ⅰ層　現代耕作土層　（文化財課確認調査　Ⅰ層）
Ⅱ層　客土層　（文化財課確認調査　Ⅱｂ層）
Ⅴ層　灰色砂質粘土層　（文化財課確認調査　Ⅴ層）
Ⅵ層　灰黄褐色粘土層　（文化財課確認調査　Ⅵ層）
　ａ・ｂ層に細分。
Ⅶ層　礫混じり暗褐色砂質粘土層　（文化財課確認調査　Ⅶ層）
　遺物包含層で、ａ・ｂ・ｃ層に細分しているが、ｂ層が部分的であり、ａ・ｃ層の分層が難しいところも多い
Ⅸ層　極暗褐色砂質粘土層　（文化財課確認調査　Ⅸ層）
　上面が遺構検出面
Ⅸ層下　灰黄褐色粘土層　（文化財課確認調査　対応層無）

上記のとおり、調査区内の土層は粘土層を基本としているが、Ⅸ層以上の層では砂粒を含んだ砂質の粘土層である。Ⅸ層下層以下の層は砂礫が少ない粘土層であり、Ⅸ層とⅨ層下層の間に自然環境が若干変化したようである。また、Ⅵ・Ⅶ層は上下の層と異なり、黒味を帯びた色調を呈している。このことから、今回調査を行った範囲の中においては、Ⅸ層下層とⅨ層、Ⅶ層とⅥ層の間の時期に、自然環境あるいは土地利用の仕方が変化したものと考えられる。

## 第２節　検出遺構

（１）土坑

調査区の北半部において、土坑は８基検出している。いずれの土坑もⅨ層上面で検出しており、Ⅶ層中で精査を行いつつ掘り下げたものの検出はできなかった。

**土坑１**

調査区の中央東壁付近、５Ｆ区の北西部で検出した遺構で、大きさは検出面で長さ 0.78 m、深さはおよそ８㎝で、東側は調査区外に広がっているため幅と形状は明らかでない。土坑２を切っており、土坑２よりも新しい。埋土は他の土坑と異なり、黄褐色ブロック土を多く含む。遺物は土器片が出土しているが、細片のため時期等は不明である。調査時及び注記の略号は「S1」である。

**土坑２**

調査区の中央東壁付近、５Ｆ区北西部で検出した遺構で、平面形は検出面で長さ 0.81 m、深さ 13 ～ 16㎝の隅丸長方形状を呈する。土坑１に切られており、検出面での幅は不明である。底面中央付近は、長さ 0.45 m、幅 0.35 m程の範囲で凹んでいる。埋土はⅦｂ層類似土である。遺物は小片が若干出土しているが、詳細

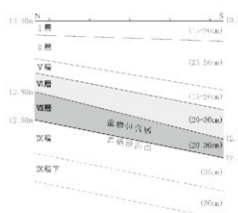



図 15　山之後遺跡土層堆積状況概念図

図 16　山之後遺跡調査区設定および遺構分布図（S = 1/200）

な時期は不明である。調査時及び注記の略号は「S2」である。

**土坑３**

調査区中央付近、５Ｆ区の西側で検出した土坑で、大きさは検出面で長さ 0.76 m、幅 0.75 mで、平面形は円形状を呈している。埋土はⅦｂ層類似土である。検出面からの深さはおよそ 16㎝と浅い。調査時及び注記の略号は「S3」である。

**土坑４**

調査区北西部、５Ｅ区北側で検出した土坑で、平面形は検出面で長さ 1.10 m、幅 0.69 mの不整長方形状を呈する。検出面からの深さは 11 ～ 13㎝である。埋土はⅦａもしくはⅦｃ層に類似した土である。調査中はわからなかったが、底部の状況から２基の土坑が切り合っている可能性もある。遺物は東側の底面付近で、埋置されたと思われる５点の土師質土器の坏が出土している。出土した土師質土器は、坏２点（図 20 ・ 5 ・ 6）、小皿３点（図 21 ・ 42 ～ 44）である。いずれも底部切り離しはヘラ切りである。遺物包含層のⅦ層から出土している土師質土器の多くが糸切りであることから、これらの遺物よりも古くなる可能性がある。形態から 12 世紀頃のものと思われる。土器は底面から出土しているが、遺構の大きさや底面の様子から、土壙墓の可能性は低いと考えられる。調査時及び注記の略号は「S4」である。

**土坑５**

調査区北西部、５Ｅ区北側で検出した土坑で、平面形は検出面で長さ 0.65 m、幅 0.42 mの不整三角形状を呈する。他の土坑に比べるとやや小さい。検出面からの深さも約８㎝と浅い。土坑４に

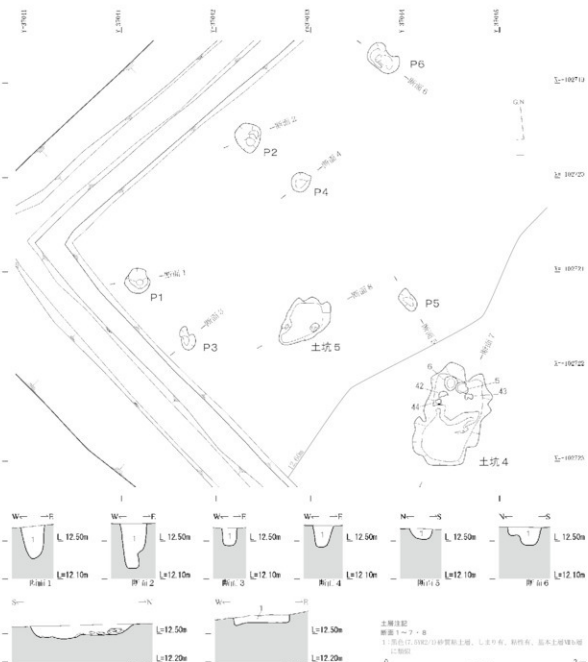



図 17　山之後遺跡検出遺構平面・断面図 1（S = 1/40）

近接している。埋土はⅦａもしくはⅦｂ層に類似の土である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。調査時及び注記の略号は「S5」である。

**土坑６**

調査区中央西側、５Ｅ区南東部で検出した土坑で、平面形は検出面で長さ 0.85 m、幅 0.51 mの楕円形状を呈する。検出面からの深さはおよそ 6cmと浅いが、南東側はさらに浅くなっている。埋土はⅦｂ層に類似の土である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。調査時及び注記の略号は「S6」である。

**土坑７**

調査区中央西側、５Ｅ区南東部で検出した土坑で、平面形は検出面で長さ 1.25 m、幅 0.95 mの

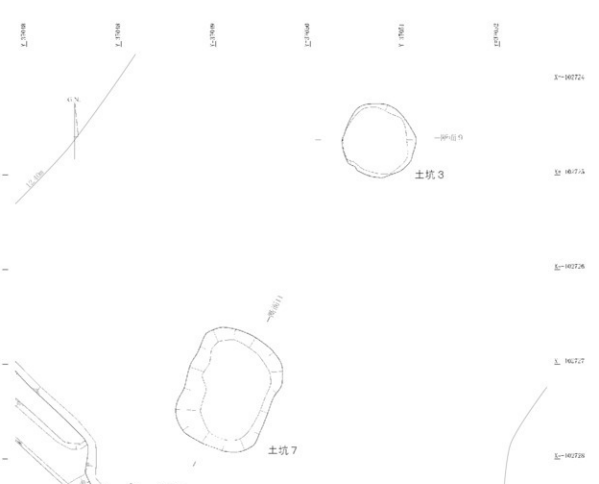



図 18　山之後遺跡検出遺構平面・断面図２（S = 1/40）

隅丸長方形状を呈する。検出面からの深さは約 13㎝である。埋土はⅦｃ層に類似した土である。遺物は細片も含めて全く出土していないため、時期は不明である。調査時及び注記の略号は「S7」である。

**土坑８**

調査区南東部、５Ｆ区南寄りで検出した土坑で、平面形は検出面で長さ 0.85 ｍ以上、幅 0.93 ｍの隅丸方形状を呈する。北側は長さ 0.45㎝前後、幅 0.32 ｍの範囲で凹みがみられる。検出面からの深さは約 11㎝である。他の土坑とは異なり、本土坑の埋土は還元色を呈する粘土である。また、底面と粘土の間には、中粒砂程の砂層が極薄く堆積しており、一部では粘土と互層状に堆積している箇所もある。このほか、埋土中にⅨ層と思われるブロック土を含む。水の流入と停滞を繰り返し

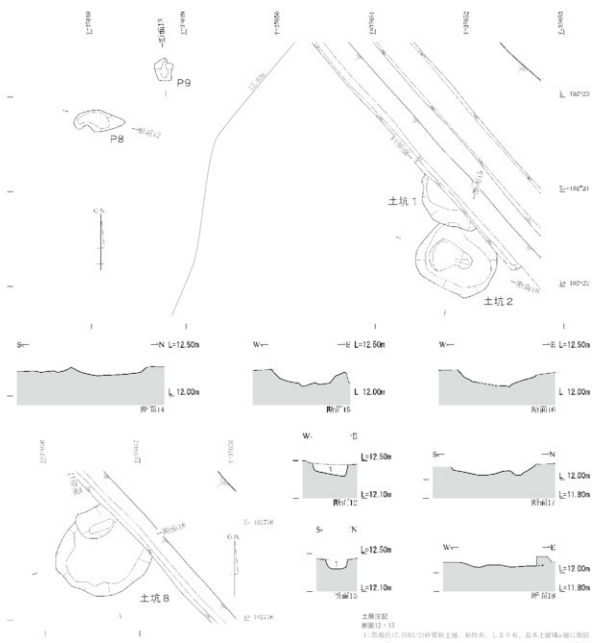


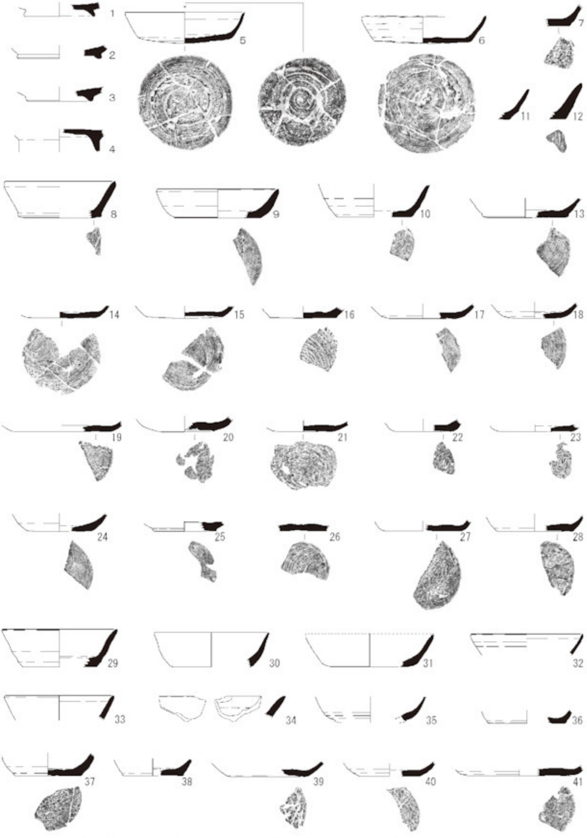

図 19　山之後遺跡検出遺構平面・断面図３（S = 1/40）

た結果と考えられ、潮遺跡でみられたような自然の凹みであると考えられる。遺物等は出土していない。埋土中にⅨ層相当のブロック土を含むが、他の遺構のようなⅦ層類似の土は全くみられない。また、埋土上部にレンズ状に堆積するような流入土はみられないことから、上部は削平されていると考えられる。調査時及び注記の略号は「S8」である。

（2）ピット

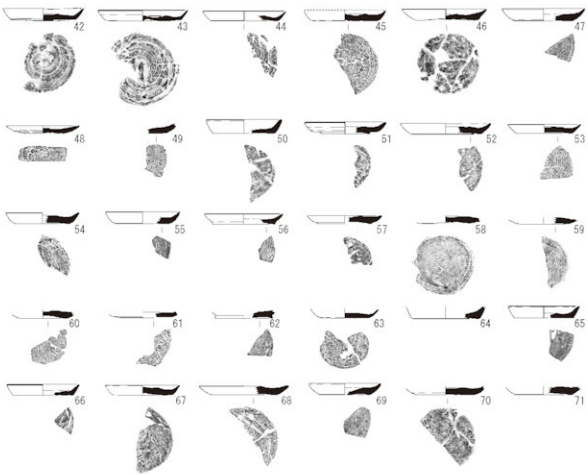
調査区内でピットは、8 基（P1 ～ P7、P9）検出している。土坑と同じく、Ⅸ層上面で検出しており、Ⅶ層中では確認できなかった。

ピットの多くは径 20cm前後で、検出面からの深さは 10 ～ 20cmであるが、P1･2 はそれぞれ 34cm、47cmと他と比べるとやや深くなっている。埋土は、調査区の北西部に位置する P1 ～ 6 がⅦｂ層に




1・16・31・36・41：5F区Ⅷc層　2：4E区Ⅷc層下面　3・26：4E区Ⅷa層　4：5E区Ⅷc層　5・6：土坑4底面　7・24：5E区Ⅷb層　8：5E区Ⅵ-Ⅷ層
9・21：5F区排水溝　10・12・23・25・34：ⅥF区Ⅷa層　11・14：4E区Ⅷa-b層　13：4E区Ⅶb層　15：4E区Ⅷc層　17：5E区Ⅵb層　18：5E区Ⅷa-b層
19・20・40：5E区Ⅷa層　22・27・29：5E区Ⅷb-c層　28・32・33・37：5F区Ⅶb層
30・39：5E区Ⅵ-Ⅶ層　35：5E区Ⅷc層　38：5F区Ⅷa-b層

図20　山之後遺跡出土遺物実測図1（土師質土器等、S = 1/4）




42・43・44：土坑４底面　45：SF区Ⅶb層　46：SF区Ⅶc層下面　47・48：SF区排水溝　48・61：調査区内　49：SE区Ⅶa層　50・51：SF区Ⅵ・Ⅶ層
51：SE区Ⅶa層　52・58：SE区Ⅶa層　53・60・66：SE区Ⅶa層　55・57・62：SF区Ⅶb 6層　59：SE区Ⅶb層　63：SE区Ⅶa・c層　68・71：SE区Ⅶc層
64：SE又Ⅶa層　65・70：SF区Ⅶb・c層　67：SE区Ⅶc層下面　69：SE又Ⅶa・b層

図21　山之後遺跡出土遺物実測図２（土師質土器等、S = 1/4）

類似した土、これらからやや離れたP8・9がⅦａ層に類似した土で若干異なっている。これらのピットについて、現地においては、掘立柱建物跡を構成するような並びのものは確認できなかった。しかし、深さや埋土の状況あるいはピット間の距離から、Ｐ１～Ｐ４については庇付の掘立柱建物跡を構成する可能性がある。なお、P1 - P2 間、P1 - P3 間、P2 - P4 間の心々間の距離は、それぞれおよそ 1.90 m、0.80 m、0.70 mである。

## 第３節　出土遺物

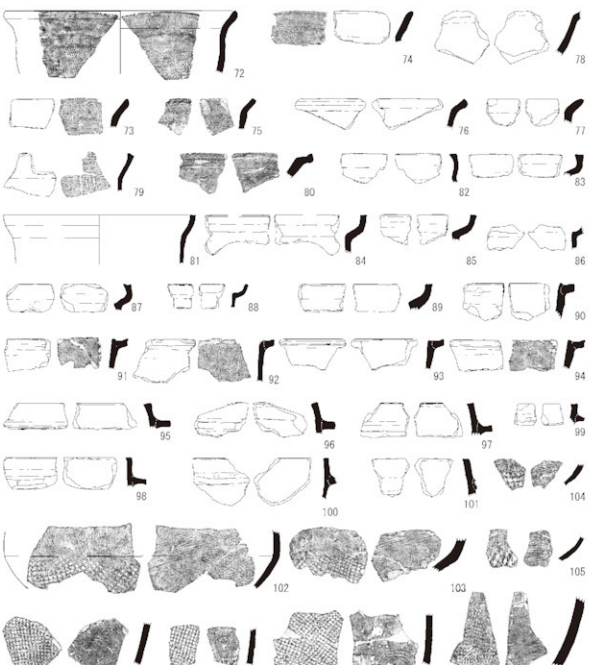
（１）土器・陶磁器（図 20 ～ 28）

１～３は、瓦器椀の可能性がある土器である。１の内外面は黒色を呈し、ヘラミガキがみとめられる。４は高い脚台をもつ坏と思われるが、調整や全形が不明である。５～ 41 は土師質土器の坏と思われるものである。底部の切り離し技法には、ヘラ切り（５～７）、糸切り（糸切りの可能性があるものを含む）（８～ 27）の両者がみられる。また、27 ～ 41 は欠損や摩耗により不明なものである。５は内面にも工具痕が残っている。10・11・29・35 は外面に段がみられる。土坑４から出土している５・６は、他の坏に比べると器高に対する径の比率が大きい。

42 ～ 71 は土師質土器の小皿である。坏と同様に、底部の切り離し技法には、ヘラ切り（ヘラ切りの可能性があるものを含む）（41 ～ 49）、糸切り（糸切りの可能性があるものを含む）（50 ～ 63）

の両者がある。64～71は風化等により不明である。ヘラ切りのものは全体的に底部の凹凸が大きい。

72～109は瓦質土器の鍋・釜類と思われる破片である。72～78は口縁部が「く」字状に開く形態のもので、内面の頸部稜以下に荒いハケメをもつものが多い。79・80も同様な形態であるが、口縁端部が内面に肥厚している。81～89は、頸部で屈曲したのち、内湾しながら上部へ口縁が延びる形態のものである。81・84・87は口縁端面がわずかに凹む。90～94は、口縁が逆「L」字状を呈するものである。95～101は、口縁部下の外面に鍔が廻る形態で、釜と思われる破片である。102～109は、上記鍋・釜類の胴部片などと思われる破片で、外面底部付近にタタキが施されている。




72:4E区VIIb層　73・75・85・96・97・101:5E区VIIa層　74・78・93・103・106:5F区VIIa層　76・92・98:5F区VIIb層　77:5F区VIIc層　79・81:5E区VIb-VIIa層
80・84:5F区VIIb-c層　82・94・95・100:5E区VIIc層　83・87・91:6F区VIIa層　86:5F区VI-VIIa層　88:5F区VIb-VIIa層　89・109:4F区VIIa層
90・107:4F区VIIa層　99:4E区VIIa-b層　102:4E区排水津　104:4E区VIIa層上面
105:5F区VI-VIIa層　108:5F区VIIb層

0　20cm

**図22　山之後遺跡出土遺物実測図3**（瓦質土器等、S＝1/4）

ほとんどが格子目タタキであるが、105のみ異なり縄目状を呈する。また106～109については、瓦質土器に似た焼成具合であるが、外面のタタキの雰囲気は須恵器に類似しており、内面に同心円の当て具痕がわずかに観察できるものもあるので、軟質焼成の須恵器である可能性もある。

110～116は瓦質の捏鉢と思われる破片である。東播系須恵器に似た形状を呈する。116は口唇部が屈曲しており、注口部の可能性がある。117・118は、器種不明の瓦質土器である。117は輪状になっており底がない。底面には工具痕と思われる凹凸がみられる。また、底部の接合面にも工具痕と思われる凹凸が確認できる。

119～128は、瓦質あるいは軟質焼成の土器で、壺あるいは甕の破片と思われる。119・120は、断面の胎土の色調が薄く互層状を呈しており、剥離面も層状に剥離しており、同一個体の可能性がある。120・121は口縁端部が下方に下がっている。126～127は外面に粗いハケもしくは沈線状

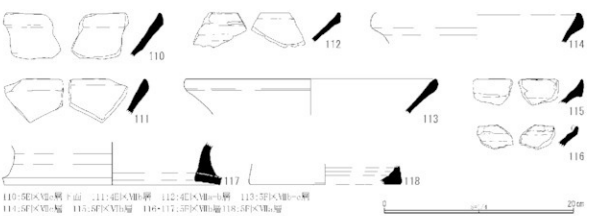



図23　山之後遺跡出土遺物実測図4（瓦質土器等、S＝1/4）

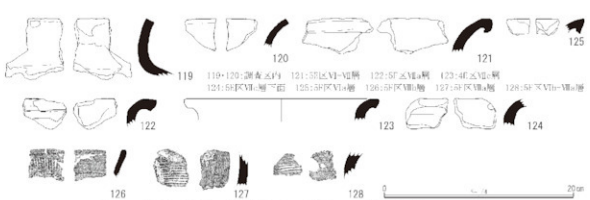



図24　山之後遺跡出土遺物実測図5（陶器・その他土器類等、S＝1/4）

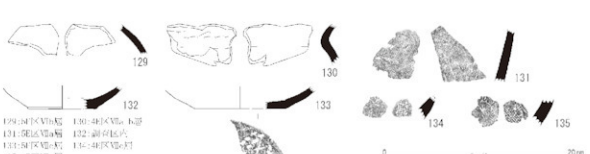



図25　山之後遺跡出土遺物実測図6（土師器等、S＝1/4）

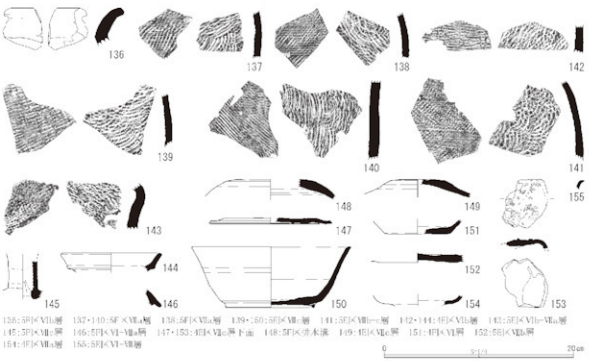



図 26　山之後遺跡出土遺物実測図７（須恵器・緑釉陶器等、S = 1/4）

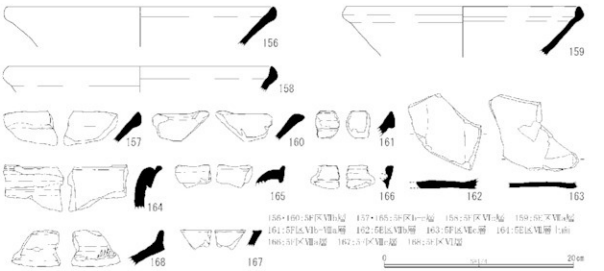



図 27　山之後遺跡出土遺物実測図８（須恵器等、S = 1/4）

ものがみられる。

129 ～ 135 は、古代以前の土師器と思われる破片である。129 は壺、130・131 は甕の破片と思われる。129 の内面と 131 の外面には細かいハケメがみられる。133・134 は底部片で、133 の外面には縄目状の圧痕等がみられる。134・135 は製塩土器と思われる破片で、内面に布目痕がみられる。

136 ～ 154 は古代の須恵器と思われる破片である。136 は甕の口縁、137 ～ 143 は甕の胴部と思われる破片でいずれも内面に同心円状の当て具痕を残す。137・138・141 は外面のタタキを一部ナデ消している。143 は歪みが顕著である。

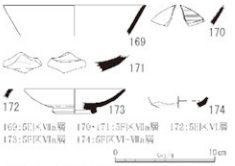



図 28　山之後遺跡出土遺物実測図９
（磁器、S = 1/4）

144·145は長頸壺の口縁および頸部と思われる破片である。146～149は坏蓋と思われる破片である。146は細片であるが、内面に返りを有している。147は返りが消失している。150は坏身で、底部に高台を持つが大部分が剥落しており、残っているのはわずかである。胴部上半はわずかに外反する。151～152は坏身と思われる底部の破片である。153は歪みが著しく器種が不明であるが、坏蓋の可能性がある。上面には砂礫が焼き付いている。154は器種不明の須恵器で、内面には自然釉がかかっているが、釉薬の上辺は真っ直ぐであることから重ね焼きをしたものと思われる。

155は表面に薄く緑色の釉薬がみられるもので、緑釉陶器の可能性がある。

156～161は、東播系須恵器の捏鉢と思われる破片で、口縁部端部がやや内側に屈曲したり、外側に肥厚させたものなどバリエーションがみられる。図示した他にも破片が出土している。162～163は捏鉢の底部の可能性があるものである。

164～168は陶器である。164は口縁部が「T」字状を呈しており、14世紀末から15世紀前半頃の常滑焼きと思われる。165・166も同じく「T」字状を呈する口縁であるが、166は下方への張出が小さい。167・168は備前焼の擂鉢と思われる破片である。167は口縁の上面は水平に近く、口縁の端部が内面側にわずかに突出している。13世紀頃のものと思われる。168は内面には卸し目が確認できる。16世紀頃のものと思われる。

169～171は青磁と考えられる破片である。169は越州窯系の可能性があるもので、口縁は直線的に延びており、太宰府分類（太宰府市教育委員会2000）の椀Ⅰ類に該当すると思われる。170は胴部の細片であるが、内面に文様がみられるが詳細は不明である。太宰府分類の龍泉窯系椀Ⅰ類と思われる。171は

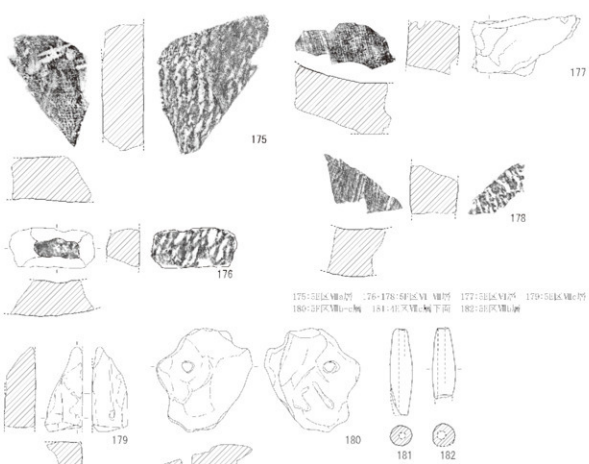



図29　山之後遺跡出土遺物実測図10（土製品、S＝1/2）

内面に圏線が確認でき、外面は破片の下部2/3は露胎している。胎土はやや黄色みがかる。細片のため分類は明らかでない。172～174は白磁と考えられる破片である。172はやや青みがかった釉薬で、口縁端は外側へ水平に折れ曲がる。太宰府分類の白磁Ⅴ類と思われる。173は小型で外面腰部以下は露胎しており、内面には目跡がみられる。畳付の調整は荒く、工具痕が残る。174は細片であるが、外面は面取りを施しており、八角坏と考えられる。腰部以下は露胎している。173・174はいずれも新垣・瀬戸分類（新垣・瀬戸2005）のD類に該当すると考えられるもので、173はⅢⅠ-c類、174は細片で分類は難しいが、腰部以下はやや丸みをもっているため、坏Ⅱ類に該当すると思われる。

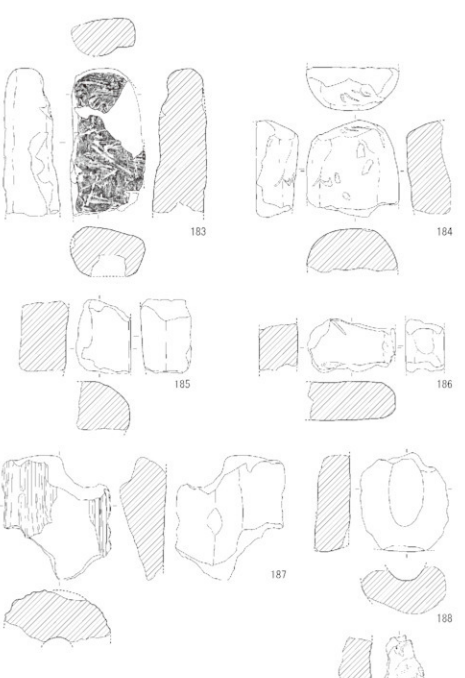



**図30　山之後遺跡出土遺物実測図11**（土製品、S＝1/3）

（2）土製品（図29・30）

175～178は瓦と考えられる土製品の破片で、175・176は土師質、177・178は須恵質である。全形がわかるようなものは出土していない。177を除く3点はいずれも外面に縄目状のタタキ痕をもつ。175は内面に布目の圧痕がみられ、177と178にもわずかであるが布目の圧痕が残っている。

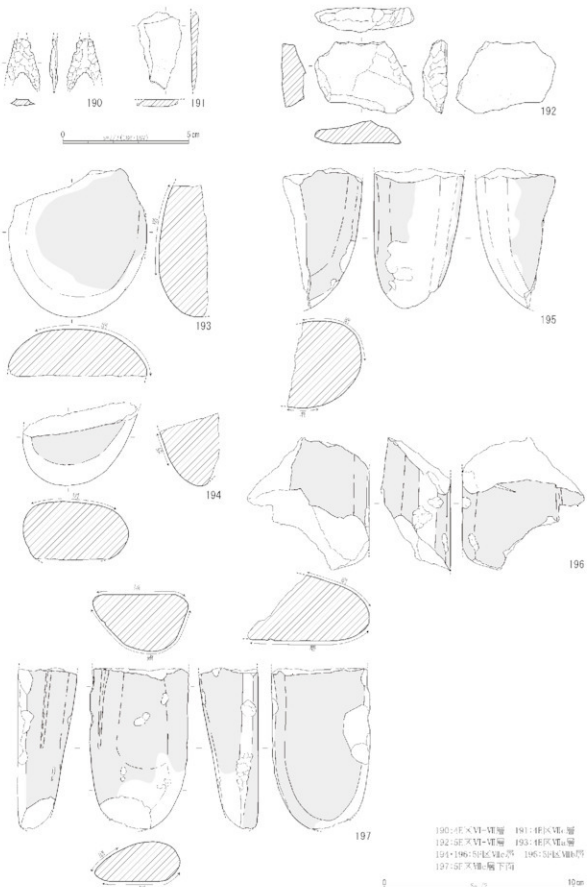



図 31　山之後遺跡出土遺物実測図 12（石器、S = 2/3・1/2）

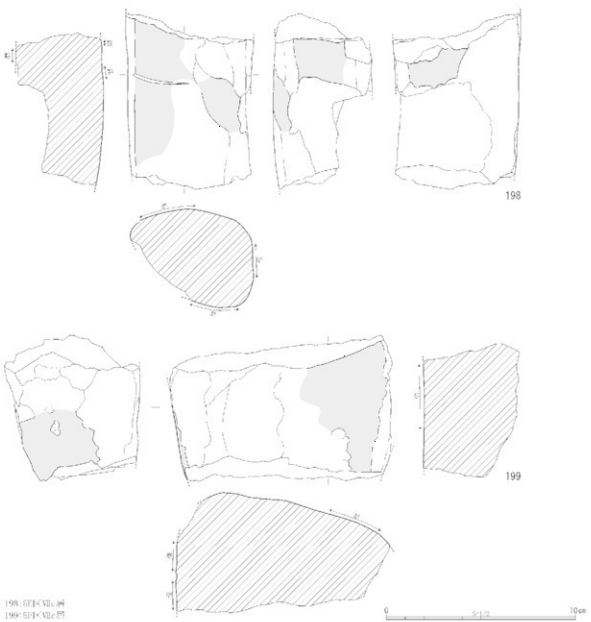



図 32　山之後遺跡出土遺物実測図 13（石器、S = 1/3）

179 は器種不明の土製品で、焼成は瓦質土器に類似しており、その可能性がある。180 は欠損が著しいものの、中央付近に穿孔が施されており、土師質土器の底部片を利用した紡錘車と考えられる。181・182 は土錘である。

183 ～ 186 は用途不明の土製品である。角が丸みをおびた直方体状を呈し、表面が整えられているものが多い。183 の表面にはスサの痕跡がみられる。図示した他にも同様な破片が出土している。また、同様に図示していないが小さな焼成粘土塊状のものも多く出土している。

187 ～ 189 は輪の羽口片と考えられるもので、187 は簀巻き状の工具で成形したと思われ、外面に波板状の凹凸がみられる。189 は表面が被熱により発泡している。また、図示した以外にも羽口の小片が出土しているものの、鉄滓は確認できなかった。

（3）石器（図 31・32）

189 は打製石鏃、191 は磨製石器の破片である。191 は表面に擦痕がみられる。192 は二次加工のある剥片と思われるもので、被熱の影響のためか風化が著しい。193 ～ 199 は、使用によって摩耗したと思われる平滑な面をもつ石器で、磨石あるいは砥石等と思われるものである。195 は被熱により表面全体が橙色に、196・198 は被熱により一部黒色に変色している。図示したほかに、遺物ではないが、長さ 10cm程度の川原石の円礫が比較的多く出土している。

## 第４節　遺構と遺物の検討

山之後遺跡では、遺構として土坑８基、ピット８基を検出している。これらの土坑およびピットの埋土は、土坑８を除くと、いずれもⅦ層に類似した土であることから、Ⅶ層堆積中に掘削が行われたものと思われる。また、土坑８の埋土の状況から、Ⅶ層下面は不整合面で、Ⅶ層堆積以前に一度造成されている可能性がある。その時期については、Ⅶ層から出土している土器が参考になると考えられる。

山之後遺跡のⅦ層から出土した遺物は、瓦質土器の鍋・釜類、東播系須恵器などが多い。この中で時期が比較的比定しやすい東播系須恵器は、その形態から第Ⅱ期第２段階～第Ⅲ期第１段階（森田 1994）に該当するものが多く、その時期は 13 世紀頃と考えられる。このほか、東播系に類似した口縁形態をもつ瓦質の捏鉢も出土している。捏鉢以外にも多くの瓦質土器の破片が出土しているが、これら瓦質の鍋・釜類は 13 世紀以降に出現するとされる（菅原 1988）。出土した鍋・釜類は、形態的には「豊前・周防型」や「筑前型」（菅原 1988）に類似するものなど、バリエーションが豊富である。しかし、在地品の様相があきらかでないため、その差が時期差か地域差かは決め手に欠ける。この他の陶磁器類をみると、常滑焼の甕、備前焼の擂鉢、白磁類など 15 ～ 16 世紀ものが目立つ。このようにしてみると、今回の調査で出土した土器類は 13 ～ 16 世紀までの幅があるということができる。ただし、比較的新しい陶磁器類はⅦ層上面～Ⅵ層出土のものが目立つことから、もう少し細分できる可能性がある。

次に土師質土器の底部切り離し技法をみると、ヘラ切りは少数で、多くは糸切りである。九州南部において、糸切り底は 12 世紀中頃に出現するものの、普及するのは都城以南で、西都市以北では変わらずヘラ切り底が主流を占めるとされる（岡元 1994）。ところで、土坑４から出土している土師質土器は、坏２点は器高に対する径が大きく、また器高も低い点で、他の土師質土器の坏とはやや異なる。地理的にやや離れるが、都城盆地ではおおまかな傾向として、坏の口径は大きいものから小さなものへ、体部に丸みをもつものから直線的なものへ変化する（桒畑 2004）ことが指摘されている。この点からすれば、土坑２出土の坏は包含層出土のものよりも古く位置付けられる。底部の切り離し技法については、混在している可能性があるため、断言は難しいが、ヘラ切りである点は古く位置付けられる要素である。土坑２出土の土師質土器の時期については、都城盆地内の坏の形態（桒畑 2004）を参考にすると、12 世紀頃のものに近いと思われる。その他のものについては、13 世紀～ 14 世紀頃の幅があり、上記の瓦質土器等と同様な時期であると思われる。

このような土坑２と包含層中の遺物について、上記のように形態差がみられる背景としては、Ⅶ層中においても造成が行われている可能性が考えられる。この点に注意してみると、底部ヘラ切りの小皿はⅦｃ層から出土しているものがほとんどであり、逆に糸切りのものはⅦｃ層から出土しているものが少ない。このことから、Ⅶｃ層の上下面においてそれぞれ造成が行われた可能性が考えられる。Ⅶｃ層下面の造成については、土坑２から 12 世紀前後と考えられる。Ⅶｃ層上面については、Ⅶ層が 13 ～ 14 世紀頃の遺物がまとまっているため、その頃の時期が考えられる。そして、

その後の 15 ～ 16 世紀頃から水田として利用されたものと考えられる。

このほかに、数は少ないものの特筆すべき遺物として瓦と輪の羽口がある。瓦（図 29 - 175 ～ 178）は、古代のものと考えられ、内面に布目痕、外面に縄目のタタキ痕がみられる。類似した瓦は 8 ～ 9 世紀に操業された下村窯跡群（宮崎市教育委員会 2008）や、山之後遺跡の南側の近い位置にある平田迫遺跡（宮崎県埋蔵文化財センター 2000）でも出土している。次に、輪の羽口では、簀巻き状の工具により成形を施したと考えられる外面の凹凸が特徴的なもの（図 30 - 187）がある。このような外面に凹凸をもつ形態は、時期的には奈良時代と、古代末～中世初頭頃の時期に限られるようである。古代のものは平城京や法隆寺、川原寺のほか、岡山県鬼城山、愛媛県佐夜ノ谷Ⅱ遺跡などで出土している（村上 2006、岡山県教育委員会 2013）ようである。いずれも古代政権との強い結びつきをもった遺跡である点が特徴である。一方、古代末～中世初頭のものは、「板屋型精錬鍛冶炉」に特有の大形羽口で、島根・鳥取・新潟といった日本海沿岸地域でみられる（角田 2004・鳥取県埋蔵文化財センター 2014）。山之後遺跡で出土している遺物の中心的な時期は 13 ～ 14 世紀であり、時期的には日本海沿岸地域出土のものに近いが、山陰地域との関連性が乏しい点が問題である。一方、古代については、遺物の量こそ少ないものの、官営施設と関係が強い瓦が出土している他に、該当する時期の須恵器も出土している。これらの点を考えると、今回出土した羽口は古代に属するものであると想定できる。このような瓦や羽口の出土から、この付近に政権と結びつきが強い官営施設があった可能性がある。時期としては、出土している須恵器などから、8 世紀後半頃が考えられる。

ところで、古代の須恵器と思われる資料の中には、歪みが大きいもの（図 26 - 143）や、同様に歪むとともに砂礫が焼き付いたもの（図 26 - 153）などがみられる。また、割れ面が二次被熱を受けたようなもの（図 26 - 139・142）もみられる。そのため、付近に須恵器の窯跡が存在する可能性も考えられる。以上のような遺物から、瓦や鉄器といった物品の生産に関連した工房的な施設であった可能性が考えられる。

**引用・参考文献**


新垣　力・瀬戸哲也　2005「沖縄における 14 世紀～ 16 世紀の中国産白磁の再整理　付. 14 世紀～ 16 世紀の青磁の様相整理メモ」『沖縄埋文研究』3、沖縄県埋蔵文化財センター、79-98 頁

岡元武憲　1994「Ⅱ　各地の土器の様相　13. 九州南部」『概説　中世の土器・陶磁器』、真陽社、197-211 頁

岡山県教育委員会　2013『史跡　鬼城山 2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 236

角田徳幸　2004「中国地方における古代末から中世の精錬鍛冶遺跡」『考古論集 - 河瀬正利先生退官記念論文集 - 』、873 - 894 頁

柴畑光博　2004「都城盆地における中世土師器の編年に関する基礎的研究（1）」『宮崎考古』第 19 号、39-53 頁

佐土原町教育委員会　1996『下村窯跡群報告書（基礎資料編）』佐土原町文化財調査報告書第 10 集

太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ⅩⅤ』

鳥取県埋蔵文化財センター　2014『殿河内ウルミ谷遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書 57

宮崎県埋蔵文化財センター　2000『平田迫遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 29 集

宮崎市教育委員会　2008『下村窯跡群報告書Ⅱ（遺物編）』宮崎市文化財調査報告書第 72 集

間壁忠彦　1991『備前焼』考古学ライブラリー 66、ニュー・サイエンス社

村上恭通　2006「日本古代の製鉄炉と国家政策」『鉄と古代国家～今治に刻まれた鉄の歴史～』第 7 回愛媛大学考古学研究室公開シンポジウム・今治市古代文化シンポジウム、愛媛大学考古学研究室・今治市・今治市教育委員会、15-18 頁

森田　稔　1994「Ⅲ　土器・陶磁器　8. 中世須恵器」『概説　中世の土器・陶磁器』、真陽社、356-366 頁

# 第５章　総括

## 第１節　古代の社会について

今回の調査では、潮遺跡において古墳時代の終わり頃の土器を焼いたと思われる土坑がみつかり、この付近で土器の生産が行われていたことが明らかとなった。また、丘陵を挟んで南側に位置する山之後遺跡においては、当該時期の遺構自体は検出できなかったが、瓦といった官営施設に関連する遺物がみつかった。その他に、政権との結びつきが強いとされる簀巻き状工具によると思われる成形痕をもつ輪の羽口や、焼け歪んだような須恵器の存在から、それが官営工房的な物であったことが推察された。特に、簀巻き状工具によると思われる成形痕を残す輪の羽口は、奈良時代と時期的に限られているだけでなく、当時の社会にとって重要な地域や場所であることが多い。したがって、この山之後遺跡の官営工房も単なる地方行政の支配下にあるだけではなく、国家政策と結びつきがあるような性格の施設であったと想定される。

山之後遺跡の出土遺物から時期的には８世紀後半頃と考えられるが、生産活動という面では、潮遺跡の頃に既に萌芽があったのかもしれない。

周辺地域に目を向けると、三財川南岸地域では、瓦や須恵器、そして石帯が出土した平田迫遺跡や国府に瓦や須恵器を供給した下村窯跡群などがあり、この付近一帯が国府への物資の供給を広く行った地域であったようである。潮遺跡・山之後遺跡周辺にも、まだ知られていない生産遺跡が存在する可能性がある。今回の調査で検出した甕穴内には、不純物の少ない粘土の堆積がみられたが、このような甕穴も、自然の地形を生かしつつ良質の粘土を獲得するために利用された可能性も考えておきたい。

山之後遺跡が位置する場所は、このような南側の物資を国府に供給するルート上にあるだけでなく、平野部への玄関口となる重要な地点にある。ところで、西都市史では、日向国府から大隅国府を結ぶ官道として、国府から南下し、三財川を越えて都於郡へと続くルートが想定されている。仮に官道がこのルートであった場合には、潮遺跡・山之後遺跡が立地するこの場所は、官道との接点として、さらに重要な交通の要衝として位置付けられる。その点では、潮遺跡付近に「馬継谷」という地名がみられるのも興味深い。

このように今回の調査によって、奈良時代においては、山之後遺跡の付近に国家権力と結びつきがあるような官営工房、あるいはその他の何らかの官営施設が存在したことを想定することができた。そして、その背景には、当該地域が国府への物資供給ルートと、官道という交通の要衝的性格があったことが考えられる。また、このような生産行為は、潮遺跡の焼成土坑にみるように既に前代に萌芽的な状況であったとみることができるのかもしれない。

## 第２節　中世の社会について

今回の潮遺跡の調査では、中世の生活面は後世における人々の活動によって削平されてしまっていたため、当時の社会の様子を知ることは困難である。しかし、表土中からわずかではあるが青磁や青花の細片が出土していることから、この付近で人々が生活していたことは間違いないと考えられる。

一方、山之後遺跡では、当該時期の遺物が多く出土しているが、包含層中からの出土であり、大部分が流れ込みであると思われる。出土している土器は、土師質土器の坏・小皿を中心として、瓦

質土器の鍋・釜・捏鉢、東播系須恵器の捏鉢が多く出土している。これらの土器は13～14世紀頃のものが中心であると思われる。鍋・釜については、口縁部の破片が多くバリエーションも多いが、県内におけるこられの土器の変遷過程が不明であるため、それが時期的な差異か、地域的な差異であるのかは明らかでない。この点は今後の課題である。このように、土師質土器・瓦質土器が多い一方、この時期に他の遺跡でよくみられる輸入陶磁器類がほとんどない点も特徴である。破損しやすいと思われる土師質土器や瓦質土器を廃棄した結果とも考えられるが、包含層出土遺物であるため、その背景は明らかではない。

このような遺物や、検出した遺構の状況から、遺跡の形成には大きく2つの段階があったと考えられる。最初はⅦc層堆積段階で、この段階では自然堆積層のⅨ層を平坦に整地した後に周辺に人々が生活していたと思われる。土坑4はこの時期に掘削され、土器が埋置されたと考えられ、土器の形態から時期は12世紀頃と思われる。次の段階はⅦａ～ｂ層堆積段階で、包含層中の遺物から時期は13～14世紀頃と考えられる。Ⅶａ・ｂ層については、周辺の流れ混みとともに、周辺の土で造成している可能性も考えられる。その後は遺物の出土が少なくなるため、周辺の人々の生活の仕方が変化したのかもしれない。

中世における山之後遺跡の社会的な状況は、遺跡から数㎞南西に向かった位置にある都於郡城に拠点をおいた伊東氏の動向と関係していると考えられる。伊東氏が日向に下向し都於郡城を築くのは建武2（1335）年で、2代の伊東祐重以降に勢力が拡大していき、10代の伊東三位入道義祐の頃に最盛期を迎えるようである。発掘調査の成果によれば、祐重が城主となる14世紀後半以降に輸入陶磁器がまとまってみられるようになり、15世紀には邵武四都窯系白磁の皿、義祐が城主となる15世紀後半には景徳鎮窯系の青花などがみられるようになり、そのバリエーションも増える（西都市教育委員会2015）ようである。

以上のような伊東氏の状況と比較すると、山之後遺跡において遺物がまとまってみられるのは伊東氏が都於郡城を築く前から、都於郡城において日向を支配するようになった初期の頃に該当する。山之後遺跡では輸入陶磁器類が少ないが、都於郡城跡においても、築城以前の14世紀前半頃までは輸入陶磁器の出土数は少ない（西都市教育委員会2015）ようである。したがって、この時期には輸入陶磁器はこの辺りにあまり流通していなかったと考えられる。その後、伊東氏の勢力拡大にともなうように遺物が少なくなっており、Ⅵ層が堆積するのはこの頃と思われる。この時期には、山之後遺跡では白磁の皿や八角杯が出土していることも、都於郡城の調査成果と類似している。このような状況からすると、Ⅶａ・ｂ層は単なる流れ込みとするよりも、伊東氏の勢力拡大の途中で、その何らかの影響を受けて造成を行ったと考える方がよいと思われる。

以上のように、古代後半～中世前半の様相については明らかではないが、山之後遺跡は周辺地域の政治的な動向と密接に関係していたということができる。

**引用・参考文献**

西都市　2016『西都市史　通史編』上巻
西都市教育委員会　2015『国指定史跡　都於郡城跡』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書代67集

## 附表１　潮遺跡遺構計測値一覧表

| 土坑 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 検出面(m) | | | 底面(m) | | | 深さ(m) |
| 土坑1 | (0.78) | × | - | (48.25) | × | - | 0.08 |
| 土坑2 | 0.81 | × | - | 0.70 | × | 0.58 | 0.16 |
| 土坑3 | 0.76 | × | 0.75 | 0.71 | × | 0.58 | 0.16 |
| 土坑4 | 1.10 | × | 0.69 | 0.97 | × | 0.54 | 0.13 |
| 土坑5 | 0.65 | × | 0.42 | 0.56 | × | 0.35 | 0.08 |
| 土坑6 | 0.85 | × | 0.51 | 0.70 | × | 0.36 | 0.06 |
| 土坑7 | 1.25 | × | 0.95 | 1.01 | × | 0.69 | 0.13 |
| 土坑8 | - | × | 0.93 | - | × | 0.72 | 0.11 |
| **ピット** | | | | | | | |
| | 検出面(m) | | | 底面(m) | | | 深さ(m) |
| P1 | 0.26 | × | 0.26 | 0.08 | × | 0.06 | 0.34 |
| P2 | 0.32 | × | 0.27 | 0.10 | × | 0.09 | 0.47 |
| P3 | 0.24 | × | 0.16 | 0.11 | × | 0.06 | 0.18 |
| P4 | 0.22 | × | 0.19 | 0.11 | × | 0.10 | 0.23 |
| P5 | 0.23 | × | 0.13 | 0.14 | × | 0.08 | 0.11 |
| P6 | 0.36 | × | 0.19~0.23 | 0.18 | × | 0.11 | 0.19 |
| P8 | 0.53 | × | 0.23 | 0.34 | × | 0.07~0.16 | 0.12 |
| P9 | 0.23 | × | 0.19 | 0.18 | × | 0.08 | 0.09 |

| 溝状遺構 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 検出面(m) | | 底面(m) | | 深さ(m) |
| | 長さ | 幅 | 長さ | 幅 | |
| 溝状遺構1 | (1.90) | 0.85 | (1.53) | 0.22 | 0.12 |
| 溝状遺構2 | 2.83 | 0.60 | 1.58 | 0.30 | 0.06 |
| 溝状遺構3 | (14.13) | 0.84~1.19 | (14.13) | 0.27~0.91 | 0.12~0.27 |

## 附表２　山之後遺跡遺構計測値一覧表

| 土坑 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 検出面(m) | | | 底面(m) | | | 深さ(m) |
| 土坑1 | 1.63 | × | 1.06 | 1.49 | × | 0.86 | 0.05 |
| 土坑2 | (1.85) | × | (1.72) | - | × | - | (0.12) |
| 土坑3 | 1.10 | × | 0.94 | 0.77 | × | 0.59 | 0.14 |
| 土坑4 | (0.88) | × | - | (0.33) | × | - | 0.14 |
| 土坑5 | 0.77 | × | 0.54 | 0.32 | × | 0.17 | 0.25 |
| 土坑6 | 0.88 | × | 0.56 | 0.79 | × | 0.44 | 0.17 |

※土坑２は掘り過ぎた部分があるため，計測値は推定の値である

| 自然流路・甑穴 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 検出面(m) | | 深さ(m) |
| | | 長さ | 幅 | |
| 自然流路1 | | (6.50) | 0.35~1.13 | 0.06~0.73 |
| 自然流路2 | | 13.76 | 0.44(~3.36) | 0.40~0.70 |
| 甑穴1 | | (0.80) | 0.81 | 0.73 |
| 甑穴2 | | 2.18 | 0.89 | 0.54 |
| 甑穴3 | 検出面 | 2.71 | 2.02 | 0.40 |
| | 落ち込み上面 | 1.91 | 1.37 | |
| 甑穴4 | | 4.06 | 2.14 | 0.70 |
| 甑穴5 | | (1.83) | 1.83 | 0.27 |

## 附表３　潮遺跡出土遺物観察表

土器・須恵器等

| 掲載番号 | 器種 | 出土位置(接合状況) | | 取上番号 | 残存率 | 大きさ(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 調整(外面/内面) | 色調(外面/内面) | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 甕 | 土坑2 | (S2 + S2ﾄﾚ) | 11-15・17-21・56 | 4/8 | 16.0 | 23.0 | | 不明/不明 | 橙(5YR7/8)/橙(5YR7/6) | 2mm以下軟赤粒・1mm以下石英10%以下 | 底径欄の数値は胴部最大径 |
| 2 | 甕 | B2区南東部 | (ﾄﾚﾝﾁ上 + B2SE) | - | 1/8 | 16.1 | 21.6 | - | 不明/不明 | 橙(5YR7/8) | (1mm以下白砂を含) | 底径欄の数値は胴部最大径 |
| 3 | 甕 | 土坑2 | (S2NW) | - | 1/8 | 11.6 | - | - | 不明/不明 | 橙(7.5YR6/6) | 目立った砂粒無(微細軟赤粒含) | |
| 4 | 甕 | 土坑2 | (S2NW) | - | 1/8 | 11.3 | - | - | 不明/不明 | 橙(7.5YR7/6) | 1mm以下軟赤粒5%(1mm以下軽石含) | |
| 5 | 甕? | 土坑2 | (S2 + S2Tr) | 57・58 | | 19.3<br>20.0 | 5.1 | 15.1<br>～<br>17.5 | 縦ﾊｹﾒ･ﾅﾃﾞ/ﾅﾃﾞ | にぶい橙(7.5YR7/4) | 2mm以下軟赤粒10%(1mm以下軽石含) | 口径欄の上段は長軸径・下段は短軸径、器表面はほぼ剥落 |
| 6 | 甕 | 土坑2 | (S2) | - | 1/8> | - | - | - | 横ﾅﾃﾞ?/不明 | にぶい橙(7.5YR7/4)/橙(7.5YR7/6) | 1mm以下石英・他砂粒5% | |
| 7 | 甕 | 表土中 | (ﾄﾚﾝﾁ上) | - | 1/8> | - | - | - | 横ﾅﾃﾞ/不明 | 橙(5YR7/6) | 3mm以下砂礫5-10% | |
| 8 | 甕? | 土坑2 | (S2) | 61 | 1/8 | - | - | - | ﾅﾃﾞ?/横ｲﾀﾅﾃﾞ? | 浅黄橙(10YR8/3)・にぶい橙(7.5YR7/4)/浅黄橙(10YR8/3) | 2mm以下軟赤粒・他砂礫5%以下 | |
| 9 | 甕? | 土坑2 | (S2 + S2E) | 61 | 1/8 | - | - | - | ﾅﾃﾞ?/ｲﾀﾅﾃﾞ | 淡橙(5YR8/4)/浅黄橙(10YR8/3) | 2mm以下軟赤粒・1mm以下白砂粒5%以下 | 内面底部付近に褐色の付着物有 |
| 10 | 甕 | 土坑2 | (S2) | 60 | 1/8> | - | - | - | 不明/不明 | 橙(5YR7/8) | 1mm以下白砂粒・石英5% | |
| 11 | 甕 | 土坑2 | (S2) | 62 | 2/8 | - | - | 8.6 | ﾅﾃﾞ?/不明 | 橙(5YR7/6) | 1mm以下軟赤粒・白砂礫10%(3mm白円礫含) | |
| 12 | 甕? | 土坑2 | (S2) | 92 | 6/8 | - | 7.8 | - | 不明/不明 | 橙(5YR7/6) | 2mm以下軟赤粒・1mm以下白砂粒10%以下 | |
| 13 | 不明 | 土坑3 | (S3) | - | 1/8 | - | 11.8 | - | 横ﾅﾃﾞ/不明 | 橙(5YR7/6) | 2mm以下円礫40% | |
| 14 | 不明 | B2区IV層下面 | (B2IV下ﾒﾝ) | - | 2/8 | - | 6.5 | - | 横ﾅﾃﾞ/不明 | にぶい黄橙(10YR7/4)/浅黄橙(10YR8/3) | 微細石英・砂粒10% | |
| 15 | 鉢 | 自然流路2 | (S6) | 30 | 2/8 | 15.2 | - | 6.3 | 不明/不明 | にぶい橙(7.5YR6/4)/橙(7.5YR7/6) | 3mm以下円礫10%以下，1mm以下石英・黒砂粒1% | |
| 16 | 鉢 | 土坑2 | (S2) | 74・75 | 2/8 | 14.4 | - | - | 縦ﾅﾃﾞ?/横ｲﾀﾅﾃﾞ? | 橙(5YR6/6)/にぶい黄橙(10YR7/2) | 2mm以下白砂礫10% | |
| 17 | 鉢 | 土坑2 | (S2) | 56 | 4/8 | 13.2 | - | - | 横ﾅﾃﾞ/ﾅﾃﾞ | にぶい橙(7.5YR7/4) | 1mm以下軟赤粒20%，2mm以下砂礫5% | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 18 | 鉢 | 土坑2 | (S2) | 59 | 6/8 | 12.5 | - | - | 横ﾅﾃﾞ/横ﾅﾃﾞ | にぶい黄橙(10YR6/3)/にぶい黄橙(10YR7/4) | 1mm以下軟赤粒10% |
| 19 | 鉢 | 土坑2 | (S2E) | - | 1/8 | 13.2 | - | - | 横ﾅﾃﾞ/不明 | にぶい橙(7.5YR7/4)/にぶい黄橙(10YR7/4) | 1mm以下軟赤粒20%<br>(2mm以下軽石および微細砂粒含) |
| 20 | 鉢 | 土坑2 | (S2) | 56 | 1/8 | 12.8 | - | - | 不明/不明 | 淡橙(5YR8/4)/橙(5YR7/6) | 外面中程に段有 |
| 21 | 坏 | 38区 | (38) | 53 | 1/8 | - | 10.9 | - | 不明/不明 | 橙(2.5YR7/6)/橙(5YR7/6) | 8mm以下黒鉢・1mm以下砂粒5%未満 |
| 22 | 坏? | 58区<br>Ⅱ層 | (58Ⅱ) | 24 | 2/8 | - | 6.1 | - | ﾅﾃﾞ(底部へ切り)/ﾖｺﾅﾃﾞ | 灰黒(7.5YR6/4)/にぶい橙(7.5YR7/3) | 1mm以下軟赤粒・砂粒5%未満 |
| 23 | 小皿? | 自然流路2 | (S6) | - | 1/8 | - | 7.1? | - | 不明(底部にﾍｻﾗ状の工具痕)/ﾖｺﾅﾃﾞ | 橙(5YR7/6) | (3mm以下軟赤粒含) | 高台状に粘土が着く |
| 24 | 坏蓋 | 土坑1 | (S1) | 44 | 2/8 | 13.6 | - | - | ﾍｶﾗｽﾞﾗ・ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | 灰(N6/)/灰白(N7/) | (微細白砂粒5%) | 口縁部外面に自然軸、27と同一個体? |
| 25 | 坏蓋 | 土坑1<br>検出面 | (ⅢS1ｶｸ) | 8・9 | 2/8 | 13.6 | - | - | ﾍｶﾗｽﾞﾗ・ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | 灰(N6/) | (微細白砂粒5%以下) | 口縁部外面に自然軸、28と同一個体? |
| 26 | 坏蓋 | 38区<br>Ⅱ層 | (38Ⅱ) | 27 | 8/8 | 2.3 | - | - | ﾖｺﾅﾃﾞ/- | 灰白(10Y7/1) | (微細白砂粒含) |
| 27 | 坏蓋 | 表土中 | (ｴｯﾁ上) | - | - | - | - | - | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 灰(N6/) | 1mm以下白砂粒5%<br>(2mm白砂粒含) |
| 28 | 壁? | 自然流路2 | (S6) | 32 | 1/8 | - | - | - | ﾅﾃﾞ(格子目)/(当て具痕→)ﾅﾃﾞ | 黄灰(2.5Y6/1) | 2mm以下砂粒5%以下 |
| 29 | 壁? | B2区Ⅳ層<br>下面 | (B2Ⅳ<br>下ﾒﾝ) | - | 1/8 | - | - | - | ﾅﾃﾞ(格子目)/(当て具痕) | 灰(N6/)/灰(5Y6/1)/剥面・灰黒(7.5YR5/2)の間に灰(5Y6/1) | 目立った砂粒無 | 内面当て具痕は縄目状、外面に黒色の付着物有 |
| 30 | 壁? | 文化財課<br>トレンチ | (ｴｽﾃﾝ) | - | 1/8 | - | - | - | ﾅﾃﾞ(平行)/(当て具→)ﾅﾃﾞ | 灰(10Y5/1)/灰(N6/)/剥面・灰黒(7.5YR6/2) | (1mm以下白砂粒含) |
| 31 | 壁? | 自然流路1 | (S3) | - | 1/8 | - | - | - | ﾅﾃﾞ(平行)/(当て具痕) | 灰(N5/) | (微細白・黒砂粒5%未満) |
| 32 | 壁? | 自然流路1 | (S3) | 54 | 1/8 | - | - | - | ﾅﾃﾞ(平行)/(当て具痕) | 灰(N5/)/灰(N6/)/剥面・赤灰(7.5YR5/1) | (微細白砂粒5%) | 割れ面の一部が摩耗もしくは使用により平滑 |

## 磁器

| 掲載番号 | 器種 | 出土位置（接合状況） | 取上番号 | 残存率 | 色調（軸／胎土） | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 33 | 青磁 椀 | 表土中 （ｴｯﾁ上） | - | 1/8 | ｵﾘｰﾌﾞ灰(10Y6/1)/灰白(N8/) | 目立った混入物無 | 龍泉窯系 |
| 34 | 青花 皿 | 表土中 （ｴｯﾁ上） | - | 1/8 | 灰白(5GY8/1)/灰白(N8/) | 目立った混入物無 | 小野 1982 分類 B1 群か |

# 附表４　山之後遺跡出土土器等観察表

土師質土器等

| 掲載番号 | 器種 | 出土位置 | 取上番号（接合状況） | | 残存率 | 大きさ(cm) 口径 | 底径 | 高さ | 調整 外面/内面 | 底部切離 | 色調（外面/内面） | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 瓦器椀? | 5F区 Ⅶc層 | (5FⅦc) | 339 | 1/8 | - | 7.6 | - | 横位ミガキ・ヨコナデ/ナデ→ミガキ? | - | 暗灰(N3/) | (微細白砂粒5%) | 外面にヘラ状工具による沈線状の凹み有 |
| 2 | 瓦器椀? | 4E区 Ⅶc下面 | (4EⅨ上メン) | 367 | 2/8 | - | 9.0 | - | ヨコナデ/ヨコナデ | - | 褐灰(10YR6/1)/灰白(10YR7/1) | 1mm以下の黒砂粒10%,4mm灰礫含 | |
| 3 | 瓦器椀? | 4E区 Ⅶa層 | (4EⅦa) | - | 1/8 | - | 7.1 | - | ヨコナデ/ヨコナデ | - | 橙(7.5YR6/6)/にぶい黄橙(10YR7/4) | 目立った砂粒無し | |
| 4 | 坏? | 5E区 Ⅶc層 | (5EⅦc) | - | 1/8 | - | - | - | 不明/不明 | - | 灰褐(7.5YR5/2)/灰褐(7.5YR5/2)・にぶい褐(7.5YR5/4) | 他器種の可能性有 | |
| 5 | 坏 | 土坑4 底面 | (S4ﾌｺ) | 406・407 | 7/8 | 12.7 | 10.0 | 3.4 | ヨコナデ/ヨコナデ | ヘラ | 浅黄橙(10YR8/3)/灰白(10YR3/2) | 2mm以下灰・黒砂粒20%以下,3mm以下軟赤粒5%未満 | |
| 6 | 坏 | 土坑4 底面 | (S4ﾌｺ) | 408 | 7/8 | 13.1 | 10.2 | 3.0 | ヨコナデ/ヨコナデ | ヘラ | にぶい黄橙(10YR7/2)/にぶい橙(7/5YR7/4) | 目立った砂粒無し | |
| 7 | 坏 | 5E区 Ⅶb層 | (5EⅦb) | 171 | 1/8 | - | - | - | 不明/不明 | ヘラ? | 橙(7.5YR7/6) | 1mm以下軟赤粒5%前後 | |
| 8 | 坏 | 5F区 Ⅵ-Ⅶ層 | (5FⅥ-Ⅶ) | - | 1/8> | 11.6 | 8.8 | 3.9 | ヨコナデ/ヨコナデ | 糸 | 浅黄橙(7.5YR8/6)・橙(5YR6/7)/橙(5YR6/7) | 1mm以下軟赤粒10%以下(微細石英・黒砂粒含) | |
| 9 | 坏 | 5F区 排水溝 | (5Fﾍｲ水) | - | 1/8 | 12.8 | 9.2 | 3.1 | ヨコナデ/不明 | 糸 | 浅黄橙(7.5YR8/4)/浅黄橙(7.5YR8/6) | 1mm以下軟赤・黒粒10%以下(微細比呂砂粒5%) | |
| 10 | 坏 | 6F区 Ⅶa層 | (6FⅦa) | - | 1/8 | - | 7.9 | - | 不明/ナデ? | 糸 | 浅黄橙(7.5YR8/6)/にぶい橙(7.5YR7/4) | 1mm以下軟赤粒5%前後(微細石英・黒砂粒5%以下) | |
| 11 | 坏 | 4E区 Ⅶa-b層 | (4EⅦa-b) | - | 1/8> | - | - | 3.3 | ヨコナデ/ヨコナデ | 糸 | 浅黄橙(10YR8/4)/橙7.5YR7/6) | 1mm以下軟赤粒(酸化鉄?)5%前後(微細赤褐5-10%) | |
| 12 | 坏 | 6F区 Ⅶa層 | (6FⅦa) | - | 1/8> | - | - | 3.9 | ヨコナデ・ケズリ?/ヨコナデ | 糸 | 橙(5YR7/6) | 1mm軟赤・黒粒5-10%(微細白砂粒10%) | |
| 13 | 坏 | 4E区 Ⅶb層 | (4EⅦb) | 315 | 2/8 | - | 9.0 | - | 不明/ヨコナデ | 糸 | 浅黄橙(7.5YR8/4) | 1mm以下軟赤粒・褐砂粒10%以下 | 外面にヘラ状工具によると思われる工具痕有 |
| 14 | 坏 | 4E区 Ⅶa-b層 | (4EⅦa-b + 4EⅦa) | 237 | 6/8 | - | 8.1 | - | 不明/ヨコナデ・ナデ | 糸 | 灰白(10YR8/2) | 目立った砂粒無し(2mm以下軟赤粒・1mm雲母) | 内外面に褐色の付着物有 |
| 15 | 坏 | 4E区 Ⅶc層 | (4EⅦc) | 359 | 4/8 | - | 7.9 | - | 不明/不明 | 糸 | 浅黄橙(10YR8/3)/灰白(10YR8/2) | 2mm以下黒砂礫・1mm以下軟赤粒5%以下 | 底部に粘土の塊付着,底部に圧痕有 |
| 16 | 坏 | 5F区 Ⅶc層 | (5FⅦc) | 285 | 2/8 | - | 7.1 | - | ヨコナデ/ヨコナデ | 糸 | にぶい橙(7.5YR7/4) | 1mm以下軟赤粒10%前後,1mm以下褐砂粒1% | |
| 17 | 坏 | 5E区 Ⅵb層 | (5EⅥb) | 152 | 2.8 | - | 7.2 | - | ヨコナデ・ナデ?/ヨコナデ・ナデ | 糸 | 浅黄橙(10YR8/4) | 2mm以下軟赤粒・1mm以下黒砂粒5%以下,1mm以下石英1%以下 | |
| 18 | 坏? | 5E区 Ⅶa-b層 | (5EⅦa-b) | - | 2/8 | - | 6.8 | - | ヨコナデ?/ヨコナデ? | 糸 | 浅黄橙(7.5YR8/6) | (微細暗灰・黒砂粒10%前後) | 内面に圧痕有? |
| 19 | 坏 | 5E区 Ⅶa層 | (5EⅦa) | 178 | 1/8> | - | 10.2 | - | ヨコナデ/ヨコナデ | 糸 | 浅黄橙(10YR8/4)/橙(5YR7/6) | 2mm前後軟赤粒5%以下,1mm以下灰・赤褐砂粒5% | |
| 20 | 坏 | 5E区 Ⅶa層 | (5EⅦa) | - | 3/8 | - | 6.2 | - | ヨコナデ・ナデ/ヨコナデ | 糸 | 灰白(2.5Y8/2)/にぶい黄橙(10YR7/3) | 1mm以下砂粒5%未満 | |
| 21 | 坏 | 5F区 排水溝 | (5Fﾍｲ水) | - | 3/8 | - | 6.6 | - | 不明/不明 | 糸 | 浅黄橙(7.5YR8/4) | 1mm以下軟赤粒10%,1mm以下石英・黒砂粒5%未満 | |
| 22 | 坏 | 5F区 Ⅶb-c層 | (5FⅦb-c) | - | 2/8 | - | 6.1 | - | ヨコナデ/ヨコナデ | 糸 | 灰白(10YR8/2) | 1mm以下軟赤・黒粒5%以下 | 内面に工具痕有 |
| 23 | 坏 | 6F区 Ⅶa層 | (6FⅦa) | - | 1/8 | - | 7.8 | - | ヨコナデ・ナデ?/ナデ | 糸 | にぶい黄橙(10YR7/4)/橙(7.5YR7/6) | (微細軟黒・赤粒5%先後) | 内面に暗赤褐色～黒褐色の被膜状の付着物?有 |
| 24 | 坏 | 5E区 Ⅶb層 | (5EⅦb) | 322 | 3/8 | - | 7.2 | - | ヨコナデ/ヨコナデ | 糸 | 浅黄橙(10YR8/4) | 1mm以下軟赤粒10%以下(微細石英・黒砂粒5%以下) | |
| 25 | 坏? | 6F区 Ⅶa層 | (6FⅦa) | - | 2/8 | - | 6.6 | - | ヨコナデ/ヨコナデ・ナデ | 糸 | 浅黄橙(7.5YR8/4)/浅黄橙(7.5YR8/6) | 2mm以下軟赤粒1%以下 | 黔面に工具による凹線状の凹み |
| 26 | 坏 | 4E区 Ⅶa層 | (4EⅦa) | 16 | - | - | - | - | -/不明 | 糸 | 浅黄橙(10YR8/3) | 2mm以下黒砂粒・軟赤粒5%以下 | |
| 27 | 坏 | 5F区 Ⅶb-c層 | (5FⅦb-c) | 301 | 3/8 | - | 8.0 | - | ヨコナデ/不明 | 糸?(→ナデ) | 橙(5YR7/6)/橙(7.5YR7/6) | 1mm以下灰砂粒・軟赤粒5% | |
| 28 | 坏 | 5F区 Ⅶb層 | (5FⅦb) | 292 | 2/8 | - | 8.1 | - | ヨコナデ?/ヨコナデ? | 不明(→ナデ?) | 橙(5YR7/6) | 1mm以下軟赤粒5% | |
| 29 | 坏 | 5F区 Ⅶb-c層 | (5FⅦb-c + 5FⅦa + 5FⅦb + 5FⅦa-b) | 293 | | 12.1 | 8.0 | 4.1 | (ヨコナデ)/(ヨコナデ) | 不明 | 橙(5YR7/6) | 1mm以下軟赤粒10%,1mm以下黒砂粒5%未満 | 口縁部歪む |
| 30 | 坏 | 5E区 Ⅵ-Ⅶ層 | (5EⅥ-Ⅶ) | - | 2/8 | 12.1 | 8.8 | 3.7 | 不明/不明 | 不明 | 橙(5YR6/6)・褐灰(7.5YR6/1)/橙(5YR6/6) | 1mm軟黒粒1% | |
| 31 | 坏 | 5F区 Ⅶc層 | (5FⅦc) | 397 | 2/8 | 13.5 | 10.2 | 3.6 | 不明/不明 | 不明 | 橙(5YR7/6) | 1mm以下黒砂粒(・微細軟赤粒)5%以下 | |
| 32 | 坏? | 5F区 Ⅶb層 | (5FⅦb) | - | | 11.7 | - | - | ヨコナデ/ヨコナデ | - | 浅黄橙(7.5YR8/4)/浅黄橙(7.5YR8/6) | 1mm以下軟赤粒5%前後(微細黒砂粒5%前後) | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 33 | 坏 | 5F区<br>Ⅶb層 | (5FⅦb) | - | 1/8 | 11.4 | - | - | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | - | 橙(7/5YR7/6)/<br>橙(5YR7/6) | 1mm以下軟赤粒1%(微細石英・黒粒20%前後) | |
| 34 | 坏 | 6F区<br>Ⅶa層 | (6FⅦa) | - | 1/8> | - | - | - | 不明/ﾖｺﾅﾃﾞ | - | 浅黄橙(10YR8/4)/<br>にぶい橙(5YR7/4) | 1mm以下軟赤粒・黒砂粒5%前後(微細な石英含) | |
| 35 | 坏 | 5E区<br>Ⅶc層 | (5EⅦc) | 320 | 1/8 | - | 7.6 | - | ﾖｺﾅﾃﾞ/不明 | 不明 | 浅黄橙(7.5YR8/4)/<br>浅黄橙(7.5YR8/6) | 2mm以下軟赤粒5%以下,<br>1mm以下黒砂粒1%以下 | |
| 36 | 坏 | 5F区<br>Ⅶc層 | (5FⅦc) | 341 | 2/8 | - | 8.5 | - | 不明/不明 | 不明 | 浅黄橙(7.5YR8/6)/<br>橙(5YR7/8) | 2mm以下軟赤粒・1mm以下黒砂粒10%以下) | |
| 37 | 坏? | 5F区<br>Ⅶb層 | (5FⅦb) | 353 | 2/8 | - | 7.1 | - | ﾖｺﾅﾃﾞ?/ﾖｺﾅﾃﾞ? | 不明 | 橙(7.5YR7/6) | 1mm以下軟赤・黒粒5%未満 | |
| 38 | 坏? | 5F区<br>Ⅶa-b層 | (5FⅦa-b) | - | 3.8 | - | 6.5 | - | 不明/不明 | 不明 | 橙(7.5YR7/6) | 1mm以下軟赤・黒粒10%以下 | |
| 39 | 坏 | 5E区<br>Ⅵ-Ⅶ層 | (5EⅥ-Ⅶ) | - | 2/8 | - | 8.8 | - | 不明/ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | 不明 | 浅黄橙(7.5YR8/4)/<br>橙(7.5YR7/6) | (微細軟赤粒?・石英10-20%) | |
| 40 | 坏 | 5E区<br>Ⅶa層 | (5EⅦa) | - | 1/8 | - | 6.4 | - | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 不明 | 浅黄橙(7.5YR8/4)/<br>橙(5YR7/6) | (微細軟赤粒10-20%,微細石英・黒砂粒5%以下) | |
| 41 | 坏 | 5F区<br>Ⅶc層 | (5FⅦc) | 282 | 1/8 | - | 10.0 | - | ﾖｺﾅﾃﾞ?/不明 | 不明 | にぶい橙(5YR7/4)/<br>橙(5YR7/6) | 1mm以下の灰・赤褐砂粒5% | |
| 42 | 小皿 | 土坑4<br>底面 | (S4ﾌｺ) | 409 | 5/8 | 8.6 | 7.0 | 1.4 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | ヘラ | 浅橙(5YR8/4)・<br>橙(7.5YR7/6)/<br>浅黄橙(10YR8/3) | 1mm以下軟赤粒1% | |
| 43 | 小皿 | 土坑4<br>底面 | (S4ﾌｺ) | 406 | 5/8 | 9.4 | 8.0 | 1.2 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | ヘラ | 橙(7.5YR7/6)/<br>灰白(10YR8/2) | 目立った砂粒無し | |
| 44 | 小皿 | 土坑4<br>底面 | (S4ﾌｺ) | 410 | 2/8 | 8.8 | 7.2 | 1.1 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | ヘラ | 浅黄橙(10R8/3)/<br>灰白(7.5YR8/2) | 1mm以下軟黒・軟赤粒5%未満 | |
| 45 | 小皿 | 5F区<br>Ⅶb層 | (5FⅦb) | 122 | 4/8 | - | 7.2 | - | 不明/ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | ヘラ? | 橙(5YR7/6) | 1mm以下軟赤粒5%前後 | |
| 46 | 小皿 | 5F区<br>Ⅶc層<br>下面 | (5FⅦc下) | 345 | 6/8 | 9.0 | 6.6 | 1.3 | 不明/不明 | ヘラ | 浅黄(2.5Y8/3)/<br>にぶい橙(5Y7/4)・<br>浅黄橙(10YR8/4) | 2mm以下軟赤粒5%未満 | |
| 47 | 小皿 | 5F区<br>排水溝 | (5Fﾍｲ水) | - | 1/8 | 8.6 | 6.6 | 1.4 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | ヘラ<br>(→<br>ﾅﾃﾞ) | 浅黄橙(7.5YR8/6) | 1mm以下軟赤粒1%(微細石英含) | |
| 48 | 小皿 | 調査区内 | (－) | - | 1/8 | 5.8 | 5.4 | 0.9 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | ヘラ | 浅黄橙(7.5YR8/6)/<br>橙(7.5YR7.6) | (微細軟赤粒5%以下) | 外面に段がつく |
| 49 | 小皿? | 4E区<br>Ⅶc層 | (4EⅦc) | 346 | 1/8> | - | - | - | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | ヘラ?<br>(→<br>ﾅﾃﾞ?) | 灰黄褐(10YR6/2)/<br>灰黄(2.5Y7/2) | 3mm以下灰砂粒・1mm以下石英5%(微細な黒砂粒含) | |
| 50 | 小皿 | 5F区<br>Ⅵ-Ⅶ層 | (5FⅥ-Ⅶ +<br>5FⅦbﾍｲ水) | - | 3/8 | 7.8 | 6.4 | 1.5 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 糸 | 浅黄橙(7.5YR8/4)・<br>橙5YR(7/6)/<br>橙(5YR7/6) | 1mm以下軟赤粒15%以下 | |
| 51 | 小皿 | 4E区<br>Ⅶa層 | (4EⅦa) | 37 | 3/8 | 8.5 | 5.2 | 1.3 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | 糸 | 浅黄橙(10yR8/3) | 1mm以下黒砂粒・軟赤粒5%以下 | |
| 52 | 小皿 | 5E区<br>Ⅶa層 | (5EⅦa) | - | 2/8 | 9.4 | 7.4 | 1.2 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 糸 | にぶい橙(7.5YR7/4)/<br>橙(7.5YR7/6) | 1mm以下灰砂粒5% | |
| 53 | 小皿 | 5F区<br>Ⅶa層 | (5FⅦa) | 191 | 2/8 | 7.6 | 6.0 | 1.0 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 糸 | 浅い黄橙(10YR8/3)/<br>浅い黄橙(7.5YR8/4) | 1mm以下白砂粒10%以下,<br>1mm以下軟赤1% | |
| 54 | 小皿 | 5F区<br>Ⅵ-Ⅶ層 | (5FⅥ-Ⅶ) | - | 3/8 | 7.6 | 5.9 | 1.3 | 不明/不明 | 糸? | 橙(7.5YR7/6) | (微細軟赤粒・石英・黒砂粒5%) | |
| 55 | 小皿 | 5F区<br>Ⅶa-b層 | (5FⅦa-b) | - | 1/8 | 7.8 | 5.6 | 1.3 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | 糸 | 浅黄橙(7.5YR8/6) | 1mm以下軟赤粒5-10%(微細赤褐・砂粒10-20%) | |
| 56 | 小皿 | 5F区<br>排水溝 | (5Fﾍｲ水) | - | 1/8 | 8.3 | 6.6 | 1.2 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | 糸 | 浅黄橙(10YR8/4) | 1mm以下灰砂粒・軟赤粒5%未満 | |
| 57 | 小皿 | 5FⅦ<br>区a-b層 | (5FⅦa-b) | - | 3/8 | 7.8 | 5.7 | 0.9 | ﾖｺﾅﾃﾞ/不明 | 糸 | 橙(7.5YR7/6) | 1mm以下軟赤粒5%前後(微細石英・黒砂粒5%) | |
| 58 | 小皿? | 5E区<br>Ⅶa層 | (5EⅦa) | 254 | 8/8 | - | 5.5 | - | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾅﾃﾞ | 糸 | 浅黄橙(10YR8/4)/<br>にぶい橙(7.5YR7/4) | (微細な白砂粒5%) | |
| 59 | 小皿? | 4E区<br>Ⅶb層 | (4EⅦb) | 209 | 6/8 | - | 5.4 | - | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 糸 | 浅い黄橙(10YR8/4) | 1mm以下軟赤粒・灰砂粒5%未満 | |
| 60 | 小皿? | 5F区<br>Ⅶa層 | (5FⅦa) | - | 3/8 | - | 5.1 | - | 不明/不明 | 糸 | 浅黄橙(7.5YR8/6) | 1mm以下軟赤・黒粒5%以下 | |
| 61 | 小皿? | 調査区内 | (－) | - | 2/8 | - | 6.3 | - | ﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | 糸 | 浅黄橙(10YR8/4) | 1mm以下軟赤粒10%以下(微細石英・黒・灰砂粒10-20%) | |
| 62 | 小皿? | 5F区<br>Ⅶa-b層 | (5FⅦa-b) | - | 1/8 | - | 6.1 | - | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | 糸<br>(→<br>ﾅﾃﾞ?) | 浅黄橙<br>(10YR8/3・7.5YR8/4)/<br>浅黄橙(7.5YR8/4) | 1mm以下軟質黒・赤粒5%未満 | 高台状に底部外縁に粘土付着 |
| 63 | 小皿 | 5E区<br>Ⅶa-c層 | (5EⅦa-c) | - | 6/8 | - | 5.2 | - | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | 糸? | 浅黄橙(7.5YR8/4)/<br>浅黄橙(10YR8/4) | 1mm以下軟赤粒10-20%(微細石英5%) | |
| 64 | 小皿? | 4F区<br>Ⅶa層 | (4FⅦa) | 165 | 2/8 | - | 7.4 | - | 不明/不明 | 不明<br>(→<br>ﾅﾃﾞ?) | 橙(2.5YR7/6) | 1mm以下黒砂粒・軟赤粒5%以下 | |
| 65 | 小皿 | 5F区<br>Ⅶb-c層 | (5FⅦb-c) | - | 3/8 | 7.6 | 6.2 | 1.3 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 不明 | 浅黄橙(7.5YR8/4)/<br>にぶい橙(7.5YR7/4) | 1mm以下軟赤粒(鉄錆状)5-10%(微細石英10%以下) | |
| 66 | 小皿 | 5F区<br>Ⅶa層 | (5FⅦa) | - | 1/8 | 7.6 | 6.4 | 1.2 | 不明/不明 | 不明 | 浅黄橙(10YR8/3) | 1mm以下軟赤粒5%以下 | |
| 67 | 小皿 | 5E区<br>Ⅶc層下面 | (5EⅦc下) | 369 | 3/8 | 8.0 | 6.0 | 1.1 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾅﾃﾞ | 不明 | 浅黄橙(7.5YR8/4)/<br>浅黄橙(7.5YR8/6) | 1mm以下灰・赤褐砂粒10%<br>3mm橙礫1% | |
| 68 | 小皿 | 5E区<br>Ⅶc層 | (5EⅦc) | 245 | 4/8 | 9.2 | 7.3 | 1.2 | 不明/ﾖｺﾅﾃﾞ | 不明 | 浅黄橙(7.5YR8/4) | (微細石英・軟赤粒・他砂粒5%) | |

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 69 | 小皿 | 4E区 Ⅶa-b層 | (4EⅦa-b) | - | 1/8 | 7.5 | 5.6 | 1.3 | 不明/不明 | 不明 | 浅黄橙(7.5YR8/6) | 1mm以下石英5% |
| 70 | 小皿? | 5F区 Ⅶb-c層 | (5FⅦbc) | - | 4/8 | - | 6.0 | - | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | 不明 | 浅黄橙(10YR8/4)・浅黄橙(7.5YR8/4) | 1mm以下軟赤粒5%未満, 1mm以下石英1% |
| 71 | 小皿? | 5E区 Ⅶc層 | (5EⅦc) | 324 | 4/8 | - | 6.0 | - | 不明/不明 | 不明 | 浅黄橙(7.5YR8/6) | 目立った砂粒無 |

## 瓦質土器等

| 掲載番号 | 器種 | 出土位置 | (接合状況) | 取上番号 | 残存率 | 大きさ 径(cm) | 調整(外面/内面) | 色調(外面/内面) | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 72 | 鍋 | 4E区Ⅶb層 | (4EⅦb) | 205 | 1/8 | 24.3 | 横ﾅﾃﾞ・斜ﾊｹﾒ/横ﾅﾃﾞ・斜ﾅﾃﾞ・横ﾊｹﾒ | 浅黄橙(10YR8/4)・浅黄橙(10YR8/3) | 2mm以下石英5%, 2mm以下軟赤粒5-10% | |
| 73 | 鍋 | 5E区Ⅶa層 | (5EⅦa) | 268 | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ/横ﾅﾃﾞ | 浅黄橙(10YR8/4)/浅黄橙(7.5YR8/6) | 1mm以下石英・軟黒粒10%前後(微細黒砂粒含) | |
| 74 | 鍋 | 5F区Ⅶa層 | (5FⅦa) | 388 | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ・斜ﾊｹﾒ/横ﾊｹﾒ | 浅黄橙(10YR8/4)・にぶい橙(5YR6/4)/浅黄橙(10YR8/4) | 1mm以下石英10%前後、1mm以下軟赤粒・黒砂粒5% | |
| 75 | 鍋 | 5E区Ⅶa層 | (5EⅦa) | - | 1/8> | - | ﾅﾃﾞ・横ﾅﾃﾞ/横ﾅﾃﾞ・斜ﾊｹﾒ→横ﾊｹﾒ | 浅黄橙(10YR8/4) | 2mm以下石英5-10%, 1mm以下黒砂粒5% | |
| 76 | 鍋? | 5F区Ⅶb層 | (5FⅦb) | 130 | 1/8> | - | 不明/横ﾊｹﾒ | 灰褐(7/5YR4/2)・褐灰(7.5YR5/1)/にぶい橙(5YR6/4) | 2mm以下石英・他砂粒5-10%(微細軟赤粒5%未満) | |
| 77 | 鍋 | 5F区Ⅶc層 | (5FⅦc) | 422 | 1.8> | - | 横ﾅﾃﾞ?/横ﾅﾃﾞ? | にぶい赤褐(2.5YR5/4)/にぶい黄褐(10YR6/4) | 1mm以下石英20%, 1mm以下他砂粒5-10% | |
| 78 | 鍋? | 5F区Ⅶa層 | (5FⅦa) | 94 | 1/8> | - | (ﾅﾃﾞ)/(ﾅﾃﾞ,横ﾊｹﾒ) | にぶい橙(5YR6/4) | 2mm以下石英10-15%, 1mm以下黒砂粒・赤色岩片?等5%以下 | |
| 79 | 鍋 | 5E区Ⅵb-Ⅶa層 | (5EⅥb-Ⅶa + 5Eﾍｲ(水)) | - | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ・縦ﾊｹﾒ/横ﾊｹﾒ | 浅黄橙(10YR8/4) | 2mm以下石英10%前後(微細黒砂粒等5%) | |
| 80 | 鍋? | 5F区Ⅶb-c層 | (5FⅦb-c) | - | 1/8> | - | 横ｲﾀﾅﾃﾞ/斜・横ﾊｹﾒ | 灰(5Y6/1)/橙(7.5YR7/6) | 3mm以下石英10-15%(微細黒砂粒等5%以下) | |
| 81 | 鍋 | 5E区Ⅵb-Ⅶa層 | (5EⅥb-Ⅶa + 4EⅦb-c) | - | 1/8 | 20.4 | 横ﾅﾃﾞ・斜ﾊｹﾒ/横ﾅﾃﾞ・横ﾊｹﾒ・斜ﾊｹﾒ | にぶい黄橙(10YR7/3) | 1mm以下石英10-20%(微細黒砂粒5%) | |
| 82 | 鍋? | 5E区Ⅶc層 | (5EⅦc) | 356 | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ/横ﾅﾃﾞ | 浅黄橙(10YR8/4)/浅黄橙(10YR8/3) | 1mm以下石英10%(3mm程度の石英含む) | |
| 83 | 鍋? | 6F区Ⅶa層 | (6FⅦa) | - | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ?/横ﾅﾃﾞ? | 灰黄(2.5Y7/2)/灰黄(2.5Y6/2) | 1mm以下石英10-15%(微細他砂粒5%以下) | |
| 84 | 鍋? | 5F区Ⅶa-b層 | (5FⅦa-b) | - | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ/横ﾅﾃﾞ | にぶい橙(7.5YR7/4)・浅黄橙(10YR8/4) | 2mm以下石英15%前後、1mm以下黒砂粒5% | |
| 85 | 鍋? | 5E区Ⅶa層 | (5EⅦa) | 189 | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ?/横ﾅﾃﾞ? | 灰黄(2.5Y6/2) | 1mm以下石英10-15%(微細黒・褐砂粒5%以下) | |
| 86 | 鍋? | 5F区Ⅵ-Ⅶa層 | (5FⅥ-Ⅶa) | - | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ/横ﾅﾃﾞ | 浅黄橙(7.5YR8/3)/浅黄橙(7.5YR8/4) | (微細軟赤粒・石英・黒砂を含) | |
| 87 | 鍋? | 6F区Ⅶa層 | (6FⅦa) | - | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ/横ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | 浅い黄橙(7.5YR8/3)/浅黄橙(10YR8/3) | 1mm以下石英10-15%, 1mm以下黒砂粒5%以下 | |
| 88 | 鍋? | 5F区Ⅵb-Ⅶa層 | (5FⅥb-Ⅶa) | - | 1/8> | - | 不明/不明 | 黄橙(7.5YR)/浅黄橙(10YR8/4) | 1mm以下軟赤粒・石英5%以下(微細白砂含) | |
| 89 | 鍋? | 4E区Ⅶa層 | (4EⅦa) | 203 | 1.8> | - | 横ﾅﾃﾞ/横ﾅﾃﾞ | にぶい橙(5YR7/4)/にぶい黄橙(19YR7/3) | 2mm以下石英10-15%, 1mm以下黒砂粒5% | |
| 90 | 鍋? | 4F区Ⅶa層 | (4FⅦa) | 167 | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ/横ﾅﾃﾞ | 浅黄橙(10YR8/4) | 2mm以下石英20%前後、1mm以下軟赤粒・黒砂粒5-10% | |
| 91 | 鍋? | 6F区Ⅶa層 | (6FⅦa) | 428 | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ/横ﾊｹﾒ | にぶい褐(7.5YR6/3) | 2mm以下石英10-15%, 1mm以下黒粒5%前後 | |
| 92 | 鍋? | 5F区Ⅶb層 | (5FⅦb) | 396 | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ?/横ﾊｹﾒ | 橙(5YR6/6) | 3mm以下石英10-15%(1mm以下軟赤粒・微細黒砂粒5%前後) | |
| 93 | 鍋? | 5F区Ⅶa層 | (5FⅦa) | 75 | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ/横ﾊｹﾒ? | にぶい褐色(5YR6/3)/にぶい橙(7.5YR7/3) | 2mm以下石英10-15%(微細黒粒5%) | |
| 94 | 鍋? | 5E区Ⅶc層 | (5EⅦc) | - | 1/8> | - | (横ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ)/横ﾊｹﾒ | 浅黄橙(10YR8/4) | 2mm以下石英10%以下、1mm以下軟赤粒・黒砂粒10%以下 | |
| 95 | 釜 | 5E区Ⅶc層 | (5EⅦc) | 318 | 1/8> | - | 不明/不明 | にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR6/4) | 2mm以下石英15%前後、1mm以下他砂粒5% | |
| 96 | 釜 | 5E区Ⅶa層 | (5EⅦa) | 224 | 1/8> | - | 不明/強い横ﾅﾃﾞ | 浅黄橙(10YR8/4) | 1mm以下石英・褐砂粒10-20% | |
| 97 | 釜 | 5E区Ⅶa層 | (5EⅦa) | 176 | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ/横ﾅﾃﾞ | 灰黄褐(10YR5/2)/灰白(10YR8/2) | 1mm以下石英・他砂粒10-20% | |
| 98 | 釜 | 5F区Ⅶb層 | (5FⅦb) | 154 | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ/横ﾅﾃﾞ | 灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(10YR6/1) | 1mm以下石英10%以下、1mm以下黒砂粒5%未満 | |
| 99 | 釜 | 4E区Ⅶa-b層 | (4EⅦa-b) | - | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ/横ﾅﾃﾞ | にぶい黄橙(10YR7/3) | (微細石英・黒砂粒含) | |
| 100 | 釜 | 5E区Ⅶc層 | (5EⅦc) | 319 | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ/横ﾅﾃﾞ・斜ﾅﾃﾞ | にぶい橙(7.5YR6/4) | 1mm以下石英10%以下(軟赤粒含) | |
| 101 | 釜? | 5E区Ⅶa層 | (5EⅦa) | 145 | 1/8> | - | 横ﾅﾃﾞ/横ﾅﾃﾞ | 浅黄橙(10YR8/4) | 1mm以下石英・軟赤粒10%前後 | |
| 102 | 鍋・釜? | 4E区排水溝 | (4Eﾍｲ(水)) | - | 1/8> | - | ﾀﾀｷ→横ﾊｹﾒ・斜ﾊｹﾒ/横ﾊｹﾒ・縦ﾊｹﾒ | 浅黄橙(10YR8/4)/浅黄橙(10YR8/3) | 1mm以下石英・軟赤粒10%以下 | |
| 103 | 鍋・釜? | 5F区Ⅶa層 | (5FⅦa + 6FⅦa) | 393 | 1/8> | - | ﾀﾀｷ→縦ﾊｹﾒ?/横・斜ﾊｹﾒ | にぶい黄橙(10YR7/4)/浅黄橙(10YR8/3) | 1mm以下石英・軟赤粒15-20% | |
| 104 | 鍋・釜? | 4E区Ⅶ層上面 | (4EⅦ上ﾒﾝ) | 32 | 1/8> | - | ﾀﾀｷ/ﾊｹﾒ | 浅黄橙(10YR8/4) | 1mm以下石英・黒砂粒10%以下 | |
| 105 | 鍋・釜? | 5E区Ⅵ-Ⅶ層 | (5EⅥ-Ⅶ) | - | 1/8> | - | ﾀﾀｷ/横ﾊｹﾒ | 浅黄橙(10YR8/4) | 1mm以下黒砂粒・石英5%以下 | |
| 106 | 鍋・釜? | 5F区Ⅶa層 | (5FⅦa) | 384 | 1/8> | - | ﾀﾀｷ/(当て具痕→)ﾅﾃﾞ | 淡赤橙(2.5YR7/4)/灰白(10YR8/2) | 1mm以下軟赤粒・白砂粒5%未満 | 軟質焼成の須恵器の可能性有 |
| 107 | 鍋・釜? | 4F区Ⅶa層 | (4FⅦa) | - | 1/8> | - | ﾀﾀｷ/(当て具痕→)ﾅﾃﾞ | 浅黄橙(10YR8/3)/浅黄橙(10YR8/4) | 2mm以下石英5%未満 | 軟質焼成の須恵器の可能性有 |
| 108 | 鍋・釜? | 5E区Ⅶb層 | (5EⅦb + 5FⅦb + 5EⅦa) | 60・190 | 1/8> | - | ﾀﾀｷ/(当て具痕→)ﾅﾃﾞ | 浅黄橙(10YR8/3) | 1mm以下石英・軟赤粒10-15%(3-4mm石英含) | 軟質焼成の須恵器の可能性有 |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 109 | 鍋・釜? | 4E区Ⅶa層 | (4EⅦa) | 212 | 1/8> | - | タタキ/ナデ | 灰白(2.5Y7/1)/黄灰(2.5Y6/1) | 目立った砂粒無し(微細白色砂粒含) | 軟質焼成の須恵器の可能性有 |
| 110 | 捏鉢 | 5E区Ⅶc下面 | (5EⅨ上ﾒﾝ) | 326 | 1/8> | - | 不明/(ナデ) | にぶい黄橙(10YR7/3) | 2mm以下軟赤粒10%以下(2-3mm砂粒含) | |
| 111 | 捏鉢 | 4E区Ⅶb層 | (4EⅦb) | 204 | 1/8> | - | ナデ/ナデ | 灰白(2.5Y7/1)/灰黄(2.5Y7/2) | 1mm以下石英(10%以下)・1mm以下軟赤粒1% | |
| 112 | 捏鉢 | 4E区Ⅶa-b層 | (4EⅦa-b) | - | 1/8> | - | ヨコナデ/ヨコナデ・ナデ | 灰黄褐(10YR6/2) | 1mm以下石英10% | |
| 113 | 捏鉢 | 5F区Ⅶb-c層 | (5FⅦb-c + 5FⅦb) | - | 1/8> | - | ヨコナデ・ナデ/ヨコナデ・ナデ | 灰(5Y6/1) | 微細白砂粒10-15%(1-3mm石英1%以下) | |
| 114 | 捏鉢 | 5F区Ⅶc層 | (5FⅦc) | 391 | 1/8> | - | ヨコナデ/ヨコナデ・ナデ | 灰白(N4/)/褐灰(10YR6/1) | 1mm以下石英・他砂粒15-20%(3mm石英含) | |
| 115 | 捏鉢 | 5F区Ⅵb層 | (5FⅥb) | 56 | 1/8> | - | ヨコナデ/ヨコナデ | 灰白(10YR8/2)/浅黄橙(10YR8/3) | 1mm以下石英10% | |
| 116 | 捏鉢? | 5F区Ⅶb層 | (5FⅦb) | - | 1/8> | - | ヨコナデ/ヨコナデ | にぶい橙(7.5YR7/4)・褐灰(10YR6/1)/にぶい橙(10YR7/3) | 1mm以下石英15%前後、1mm以下黒砂粒5%未満 | 口部付近破片 |
| 117 | 不明 | 5F区Ⅶb層 | (5FⅦb) | 309 | 1/8 | (22.8) | 不明/不明 | 灰白(10YR8/2) | 1mm褐粒子5%未満(微細白砂粒15-20%) | 底面に工具による凹凸有 |
| 118 | 不明 | 5F区Ⅶa層 | (5FⅦa) | 304 | 1/8 | (15.8) | 不明/不明 | 灰白(10YR8/2) | 目立った砂粒無 | |
| 119 | 甕? | 調査区内 | - | - | 1/8> | - | 不明/不明 | にぶい橙(7.5YR6/4)/にぶい橙(5YR6/3) | 1mm以下石英・軟赤粒10%(3mm前後石英含) | 胎土断面がマーブル状の色調、層状に剥離 |
| 120 | 甕? | 調査区内 | - | - | 1/8> | - | 不明/不明 | 明褐灰(7.5YR7/2)/にぶい橙(7.5YR7/3) | 1mm以下石英10%以下(微細黒砂粒含) | 胎土断面がマーブル状の色調 |
| 121 | 甕? | 5E区Ⅵ-Ⅶ層 | (5EⅥ-Ⅶ) | - | 1/8> | - | 不明/不明 | にぶい褐(5YR6/4)/にぶい褐(7.5YR6/3) | 1-2mm石英5%以下(微細石英10-15%) | |
| 122 | 甕? | 5F区Ⅶa層 | (5FⅦa) | - | 1/8> | - | 横ナデ/横ナデ | 灰褐(7.5YR6/2) | 1mm以下石英10-15%(3mm石英含) | |
| 123 | 甕? | 4E区Ⅶc層 | (4EⅦc + 5EⅦb-c) | 514 | 1/8 | - | 不明/不明 | にぶい橙(7.5YR6/4) | 1mm以下石英5%未満(微細砂粒含) | |
| 124 | 甕? | 5E区Ⅶc層下面 | (5EⅦc下) | 372 | 1/8 | - | 不明/不明 | 浅黄橙(10YR8/3) | 1mm以下石英5-10% | |
| 125 | 不明 | 5F区Ⅵa層 | (5FⅥa) | 106 | 1/8> | - | ナデ/ナデ | 灰黄(2.5Y7/2)/灰黄褐(10YR6/6) | 1mm以下石英10%以下(微細石英・黒砂粒含) | |
| 126 | 鍋? | 5F区Ⅶb層 | (5FⅦb) | - | 1/8> | - | 縦ハケメ/横ナデ | 淡黄(2.5Y8/3) | 1mm以下石英10%以下 | |
| 127 | 鍋・釜? | 5F区Ⅶa層 | (5FⅦa) | - | 1/8> | - | タタキ?/ナデ? | にぶい橙(7.5YR7/4) | 1mm以下石英10%以下 | |
| 128 | 不明 | 5F区Ⅵb-Ⅶa層 | (5FⅥb-Ⅶa) | - | 1/8> | - | 不明/ナデ | 浅黄橙(10YR8/4) | 1mm以下石英5%(微細黒砂粒含) | 外面に沈線状の凹み |
| 129 | 壺? | 5F区Ⅵb層 | (5FⅥb) | 61 | 1/8> | - | 横ナデ/横・斜ナデ | にぶい橙(7.5YR7/4) | 2mm以下石英10%前後、1mm以下黒粒・砂粒5% | |
| 130 | 甕? | 4E区Ⅶa-b層 | (4EⅦa-b) | - | 1/8> | - | 横ナデ・縦イタナデ/横ナデ | 灰黄褐(10YR6/2)/灰黄褐(10YR5/2) | 2-3mm円礫主体の砂礫10-25% | |
| 131 | 甕? | 5E区Ⅶa層 | (5EⅦa) | 115 | 1/8> | - | 斜ハケメ/不明 | 橙(2.5YR6/6)・にぶい橙(7.5YR7/4)/橙(7.5YR7/6) | 1mm以下黒砂粒・石英10%、1mm以下軟赤粒5%以下 | |
| 132 | 不明 | 調査区内 | - | - | 1/8 | (7.2) | 不明/不明 | にぶい橙(7.5YR7/3)/明褐灰(7.5YR7/2) | 1mm石英3%(微細石英15%) | |
| 133 | 不明 | 5F区Ⅶc層 | (5FⅦc) | 401 | 1/8 | (9.6) | (ケズリ?→)横ナデ/ナデ | にぶい橙(7.5YR7/3)/にぶい橙(7.5YR7/4) | 2mm以下石英15% | 底部に圧痕 |
| 134 | 製塩土器? | 4E区Ⅶc層 | (4EⅦc) | - | 1/8> | - | ナデ/(布目痕) | 橙(5YR7/6)/橙(5YR6/6) | 目立った砂粒無(微細白・黒砂粒含) | |
| 135 | 製塩土器? | 4F区Ⅶc層 | (4FⅦc) | 231 | 1/8> | - | ナデ/(布目痕) | 橙(5YR6/6)/橙(5YR7/6) | 目立った砂粒無(微細白・黒砂粒含) | |

## 須恵器・陶器類

| 掲載番号 | 器種 | 出土位置(接合状況) | | 取上番号 | 残存率 | 大きさ 径(cm) | 調整(外面/内面) | 色調(外面/内面) | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 136 | 甕? | 5F区Ⅵb層 | (5FⅥb~イ水 + 5FⅦb-c) | - | 1/8> | - | ヨコナデ/ヨコナデ | 灰(N6/)/灰(N5/) | 目立った砂粒無(微細白砂粒含) | |
| 137 | 甕? | 5F区Ⅶa層 | (5FⅦa) | 400 | 1/8> | - | タタキ(平行)→ナデ/(当て具痕) | 黄灰(2.5Y5/1)/灰(N5/)/割面-灰赤(7.5R5/2) | 1mm石英5%以下 | |
| 138 | 甕? | 6F区Ⅶa層 | (6FⅦa) | 394 | 1/8> | - | タタキ(平行)→ナデ/(当て具痕) | 灰(N5/)/褐灰(7.5YR6/1)・灰(N4/)/割面-灰赤(10YR4/2) | 1mm以下石英5%以下 | |
| 139 | 甕? | 5E区Ⅶc層 | (5EⅦc) | 242 | 1/8> | - | タタキ(平行)/(当て具痕) | 褐灰(10YR4/1・10YR6/1)/灰(N5/) | 目立った砂粒無 | 割れ面二次被熱? |
| 140 | 甕? | 5F区Ⅶa層 | (5FⅦa) | 159 | 1/8> | - | タタキ(平行)/(当て具痕) | 灰(N5/)/灰(N5/)/割面-灰赤10YR6/2) | 1mm以下石英1% | |
| 141 | 甕? | 5E区Ⅶb-c層 | (5EⅦb-c) | - | 1/8 | - | タタキ(格子目)→ナデ/(当て具痕) | 灰(N5/) | 目立った砂粒を含まない(微細白砂粒含) | 割れ面胎土がマーブル状態の色調を呈する |
| 142 | 甕? | 4E区Ⅵb層 | (4EⅥb) | 39 | 1/8> | - | タタキ(平行?)/(当て具痕) | 灰(N5/) | 目立った砂粒無 | 割れ面二次被熱？ |
| 143 | 甕? | 5E区Ⅵb-Ⅶa層 | (5EⅥb-Ⅶa) | - | 1/8> | - | タタキ/(当て具痕) | 灰(N7/)/灰(N6/) | 目立った砂粒無 | 焼け歪む |
| 144 | 壺? | 4E区Ⅵb層 | (4EⅥb) | 11 | 1/8 | 10.2 | ヨコナデ/ヨコナデ | 黄灰(2.5Y5/1)/褐灰(7.5Y5/1) | (微細白・黒粒20%以下) | |
| 145 | 壺 | 5F区Ⅶc下面 | (5FⅨ上ﾒﾝ) | 405 | 8/8 | - | ヨコナデ/イタナデ?(一部ケズリ状) | 黄灰(2.5Y6/1) | 2mm以下軟(?)黒粒15%以下 | |
| 146 | 坏蓋 | 5F区Ⅵ-Ⅶa層 | (5FⅥ-Ⅶa) | - | 1/8> | - | ヨコナデ/ヨコナデ | 灰(N4/) | 1mm以下石英5%以下 | |
| 147 | 坏蓋 | 4E区Ⅶc層下面 | (4EⅨ上ﾒﾝ + 5EⅨ上ﾒﾝ) | 283・368 | 2/8 | 12.8 | ヨコナデ→ナデ/ヨコナデ→ナデ | 灰(N5/) | 目立った砂粒無 | |
| 148 | 坏蓋? | 5F区排水溝 | (5F~イ水) | - | 1/8 | - | ヘラケズリ・ヨコナデ/ヨコナデ | 灰(5Y5/1) | 微細白砂粒10-15% | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 149 | 坏蓋? | 4E区Ⅷc層 | (4EⅧc) | 361 | 2/8 | 5.8 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 黄灰(2.5Y6/1)/黄灰(2.5Y5/1) | | |
| 150 | 坏 | 5E区Ⅷc層 | (5EⅧc層+5FⅥb+5EⅧa+5EⅧc+5EⅨ+5FⅥb-Ⅷa+5FⅧa-b+5FⅧa-c+5FⅧb-c+P5) | 68・185・247・250・412 | 5/8 | 口径16.8/底径9.4/高さ6.5 | ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | 灰(N6/) | 高台は剥落してほとんど残っていない | |
| 151 | 坏 | 4F区Ⅵ層 | (4FⅥ) | 51 | 1/8 | 7.0 | ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 灰白(2/5Y7/1) | 2mm以下軟(?)黒粒1% | 底部外面に藁状の圧痕 |
| 152 | 坏? | 5E区Ⅷb層 | (5EⅧb) | 164 | 1/8 | 8.1 | ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 灰(N6/) | (微細白砂粒10%以下,1mm砂粒含) | |
| 153 | 坏蓋? | 4E区Ⅷc層下面 | (4EⅧc下) | - | 1/8> | - | ﾖｺﾅﾃﾞ?/不明 | 灰(N5/) | 目立った砂粒を含まない | 焼け歪む?,砂礫が焼き着く |
| 154 | 不明 | 4E区Ⅷa層 | (4EⅧa+4EⅥ・Ⅶ) | - | 2/8 | - | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 灰(5Y6/1)/灰(5Y6/1)・灰ｵﾘｰﾌﾞ(5Y4/2) | 微細白砂粒10%前後 | 内面に自然釉 |
| 155 | 緑釉皿? | 5E区Ⅵ-Ⅶ層 | (5EⅥ-Ⅶ) | - | 1/8> | - | | 灰ｵﾘｰﾌﾞ(7.5Y4/2・7.5Y6/2) | 目立った砂粒無 | |
| 156 | 捏鉢 | 5F区Ⅷb層 | (5FⅧb+5FⅧb-c+5Fヘ(水)) | 312 | 1/8 | 28.0 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 灰(N6/) | 目立った砂粒無(微細白砂粒含) | |
| 157 | 捏鉢 | 5F区Ⅷb-c層 | (5FⅧb-c) | - | 1/8> | - | ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ(→ｲﾀﾅﾃﾞ?) | 灰(N6/・7.5Y4/1)/灰(N6/) | 目立った砂粒無 | 口部付近の破片か |
| 158 | 捏鉢 | 5F区Ⅵb層 | (5FⅥb) | 66 | 1/8> | 27.8 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 灰(N5/)・灰白(N7/)/灰白(N7/) | 微細白砂粒10% | |
| 159 | 捏鉢 | 5E区Ⅷa層 | (5E区Ⅷa+4EⅧa+5EⅧa+5FⅥb-Ⅷa) | 181 | 1/8 | 24.7 | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 灰(5Y6/1・5Y5/1)/灰(5Y6/1) | (微細白砂粒10-15%,3mm石英含) | |
| 160 | 鉢? | 5F区Ⅷb層 | (5FⅧb) | - | 1/8> | - | ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ/ﾅﾃﾞ | 灰(N6/) | 1mm以下白砂粒10-15% | |
| 161 | 捏鉢 | 5F区Ⅵb-Ⅷa層 | (5FⅥb-Ⅷa) | - | 1/8> | - | ﾖｺﾅﾃﾞ?/ﾖｺﾅﾃﾞ? | 灰(N5/)・灰白(N7/)/灰白(7/) | 微細白砂粒5% | |
| 162 | 不明 | 5E区Ⅷb層 | (5EⅧb) | 276 | - | - | ﾅﾃﾞ?/ﾖｺﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ | 灰白(5Y8/1)/灰白(5Y7/1) | 1mm以下軟(?)黒粒5%未満(微細白砂粒含) | 図左下縁は割れ面が平滑 |
| 163 | 不明 | 5F区Ⅷc層 | (5FⅧc+5FⅧb+5FⅧa-c+5FⅧb-c) | 337 | - | - | ﾅﾃﾞ/ﾅﾃﾞ | 黄灰(2.5Y6/1) | 1mm以下軟(?)黒粒・他砂粒15%以下 | |
| 164 | 甕 | 5E区Ⅷ層上面 | (5EⅧ上ﾒﾝ) | 45 | 1/8> | - | 縦ﾍﾗﾒ?→ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 灰白(10YR7/1)・褐灰(10YR5/1)/灰白(10YR7/1) | 1mm以下石英5-10% | |
| 165 | 甕? | 5F区Ⅷb-c層 | (5FⅧb-c層) | - | 1/8> | - | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 灰(N6/・N5/)/灰(N5/) | 1mm以下白砂粒5-10%,3mm前後石英・他礫3-5% | |
| 166 | 甕? | 5F区Ⅷa層 | (5FⅧa) | 161 | 1/8> | - | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 灰(N6/)/灰白(N7/)・灰(N6/) | 1mm以下白砂粒5-10% | |
| 167 | 鉢? | 5FⅧc層 | (5FⅧc) | - | 1/8> | - | ﾖｺﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 褐灰(10YR5/1)/にぶい黄橙(10YR5/3) | 1mm以下石英5-10% | |
| 168 | 擂鉢 | 5E区Ⅵ層 | (5EⅥ) | - | 1/8> | - | ﾖｺﾅﾃﾞ・斜ﾅﾃﾞ/ﾖｺﾅﾃﾞ | 灰(N6/)/灰(N5/)/割面-灰赤(10YR6/2) | 内面櫛目(7+α)条 | |

磁器等

| 掲載番号 | 器種 | 出土位置(接合状況) | | 取上番号 | 残存率 | 大きさ(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 色調(釉/胎土) | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 169 | 青磁 碗 | 5E区Ⅷa層 | (5EⅧa) | 402 | 1/8> | 14.2 | - | - | にぶい黄褐(10YR5/4)/灰黄褐(10YR6/2) | 目立った混入物無 | 越州窯系か |
| 170 | 青磁 碗 | 5F区Ⅷa層 | (5EⅧa) | 137 | 1/8> | - | - | - | ｵﾘｰﾌﾞ灰(2.5GY6/1)/灰白(N7/) | 目立った混入物無(微細灰-黒粒子含) | 龍泉窯系か |
| 171 | 青磁 碗 | 5F区Ⅷa層 | (5FⅧa) | 77 | 1/8> | - | - | - | 灰(5Y6/1)/灰白(2.5Y8/2) | 目立った混入物無(微細黒粒子含) | 龍泉窯系か |
| 172 | 白磁 碗 | 5E区Ⅵ層 | (5EⅥ) | - | 1/8> | - | - | - | 灰白(5Y7/1)/灰白(N8/) | 目立った混入物無(微細黒粒子含) | |
| 173 | 白磁 皿 | 5F区Ⅵa層 | (5FⅥa) | 114 | 3/8 | 10.0 | 4.5 | 2.6 | 灰白(5Y8/1)/灰白(5Y8/1) | 目立った混入物無(微細黒粒子含) | 目跡有 |
| 174 | 白磁 八角杯 | 5F区Ⅵ-Ⅷa層 | (5FⅥ-Ⅷa) | - | 2/8 | - | - | - | 灰白(2.5GY8/1)/灰白(2.5Y8/1) | 目立った混入物無(微細黒粒子含) | |

# 附表５　山之後遺跡出土土製品・石器観察表

土製品

| 掲載番号 | 器種 | 出土位置 | (注記名・接合状況) | 取上番号 | 大きさ(cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 重量(g) | 色調 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 175 | 瓦 | 5E区Ⅷa層 | (5EⅧa) | 226 | (7.4) | (6.9) | (2.3) | (100.0) | 灰黄(2.5Y7/2)・浅黄(2.5Y8/3) | 目立った砂粒無 | 内面に布目痕、外面にﾀﾀｷ痕 |
| 176 | 瓦 | 5F区Ⅵ-Ⅶ層 | (5FⅥ-Ⅶ) | - | (2.1) | (4.5) | (1.8) | (14.9) | 浅黄橙(7.5YR8/4) | 1mm以下軟赤粒5% | 外面にﾀﾀｷ痕 |
| 177 | 瓦 | 5E区Ⅵ層 | (5EⅥ) | 44 | (3.2) | (5.9) | (2.8) | (39.4) | 灰(N6/1・N5/1) | 目立った砂粒無 | 須恵質、内面に布目痕、外面にﾀﾀｷ痕 |
| 178 | 瓦 | 5F区Ⅵ-Ⅶ層 | (5FⅥ-Ⅶ) | - | (3.5) | (4.8) | (2.5) | (27.8) | 灰(5Y6/1) | 目立った砂粒無 | 須恵質、内面に布目痕、外面にﾀﾀｷ痕 |
| 179 | 不明 | 5E区Ⅷc層 | (5EⅧc) | 331 | (3.5) | (1.9) | (1.9) | (11.4) | | 目立った砂粒無 | 質は瓦質土器に類似、表面に擦痕状の筋がみられる |
| 180 | 転用紡錘車? | 5F区Ⅷb-c層 | (5FⅧb-c) | - | (5.5) | (5.1) | (1.6) | (26.1) | 浅黄橙(7.5YR8/6)・橙(5YR7/6) | 目立った砂粒無(微細石英5%) | |
| 181 | 土錘 | 5E区Ⅷc層下面 | (4EⅧc下) | 364 | 4.59 | 1.23 | (0.60) | (6.03) | 黒褐(2.5Y3/1)・黄灰(2.5Y5/1) | (微細砂粒・軽石含) | 内径3mm程度 |
| 182 | 土錘 | 5E区Ⅶb層 | (5EⅦb) | 124 | (3.72) | 1.28 | (0.55) | (5.13) | 赤橙(10Y6.6) | (1mm以下白色砂粒を含) | 内径4mm程度 |
| 183 | 焼成粘土塊? | 5F区Ⅶb-Ⅷa層 | (5FⅦb-Ⅷa + 5EⅧb + 5EⅧa) | 132・265 | (11.8) | (6.0) | (4.0) | (230.9) | にぶい橙(7.5YR7/4) | 目立った砂粒無(微細白砂粒2%) | スサを含む、二次被熱による変色等はみられない、重量は補強材含む |
| 184 | 焼成粘土塊? | 5F区Ⅷb層 | (5FⅧb) | 288 | (7.7) | (7.4) | (3.5) | (167.0) | 浅黄橙(7.5YR8/4)/にぶい橙(2.5YR6/4) | 1mm以下軟赤・黒粒10% | |
| 185 | 焼成粘土塊? | 5F区Ⅷc層 | (5FⅧc) | 419 | (5.9) | (4.1) | (3.9) | (95.3) | 灰白(10YR8/) | 目立った砂粒無 | |
| 186 | 焼成粘土塊? | 4E区Ⅷc層 | (4EⅧc) | 357 | (4.3) | (7.0) | (4.1) | (85.4) | 浅黄橙(10YR8/4) | 4mm以下軟赤粒(高師小僧?)20%以下 | 高師小僧様の軟質赤色粒子を多く含む |
| 187 | 輪羽口 | 5F区Ⅷb層 | (5FⅧb) | 294 | (9.9) | (8.7) | (4.0) | (210.7) | 明褐灰(7.5YR7/2)・明褐灰(7.5YR7/2) | 目立った砂粒無[軟赤粒(高師小僧?)含] | 外面に簀巻きによる凹凸有 |
| 188 | 輪羽口 | 5F区Ⅷa層 | (5FⅧa) | 93 | (7.9) | (7.0) | (2.7) | (141.7) | にぶい黄橙(10YR7/3) | 1mm以下石英20%前後(2~4mm砂粒含) | |
| 189 | 輪羽口 | 5FⅧb-c層 | (5FⅧb-c) | - | (7.1) | (3.5) | (2.7) | (47.3) | 灰白(2.5T7/1)・浅黄橙(10YR8/3) | 1mm以下石英3%以下(微細石英5-10%) | 被熱により発泡および変色、図上部で断面外側の厚さ2cm(図上部)-0.5cm(図下部)の部分が還元色を呈する |

石器

| 掲載番号 | 器種 | 出土位置 | (注記名) | 取上番号 | 大きさ(cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 190 | 打製石鏃 | 4E区Ⅵ-Ⅶ層 | (4EⅥ・Ⅶ) | - | (2.02) | (1.30) | 0.32 | (0.65) | 頁岩 | |
| 191 | 磨製石器片 | 4E区Ⅷc層 | (4EⅧc) | - | (3.07) | (1.71) | (0.30) | (1.69) | 頁岩 | |
| 192 | 二次加工剥片 | 5E区Ⅵ-Ⅶ層 | (5EⅥ-Ⅶ) | - | 3.84 | 5.26 | 1.22 | 24.9 | 砂岩 | 被熱? |
| 193 | 磨石 | 4E区Ⅷa層 | (4EⅧa) | 235 | (7.88) | (7.44) | (2.63) | 198.0 | 御鈴山酸性岩類 | |
| 194 | 磨石 | 5F区Ⅷc層 | (5FⅧc) | 244 | (4.42) | (6.11) | (3.31) | (96.7) | 砂岩 | |
| 195 | 磨石 | 5F区Ⅷb層 | (5FⅧb) | 128 | (7.40) | (4.23) | 4.67 | (156.8) | 砂岩 | 被熱により、にぶい橙~橙色(2.5YR7/4~2.5YR6/8)を呈する |
| 196 | 磨石(・砥石?) | 5F区Ⅷc層 | (5FⅧc) | 399 | (7.03) | (6.50) | (3.67) | (137.2) | 砂岩 | 被熱によるためか一部黒変 |
| 197 | 磨石(・砥石?) | 5F区Ⅷc層下面 | (5FⅨ上ﾒﾝ) | 425 | (8.50) | 5.25 | 3.19 | (194.1) | 砂岩 | |
| 198 | 磨石? | 5E区Ⅷc層 | (5EⅧc) | 238 | (9.31) | 6.69 | (4.90) | (376.2) | 砂岩 | 被熱によるためか一部黒変 |
| 199 | 台石? | 5F区Ⅷc層 | (5FⅧc) | 417 | (7.70) | (11.80) | (6.57) | (820.9) | 砂岩 | |

# 写　真　図　版

1　山之後遺跡調査地付近上空からみた工区路線（上が北）

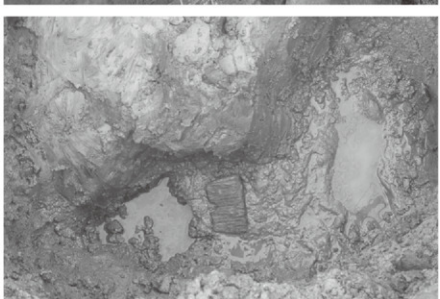
図版二

1　潮遺跡調査地上空から北側を望む（上方右端付近が日向国府などがある西都市街地）

2　潮遺跡調査区全景（右が北）

1　潮遺跡
土坑２遺物出土状況
（上が東）

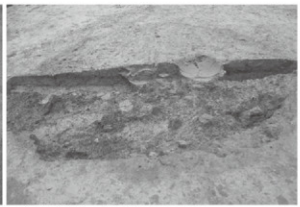
2　潮遺跡
自然流路１・２全景
（上が南）



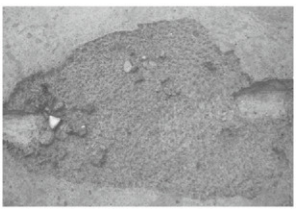
3　潮遺跡
畷穴４底面の木製品
出土状況（上が北）

図版四

1 潮遺跡土坑２検出状況（南から）

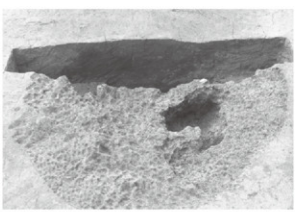


2 潮遺跡土坑２半裁状況（南から）

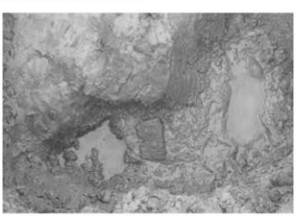


3 潮遺跡土坑１遺物出土状況（南から）

4 潮遺跡竪穴２土層断面



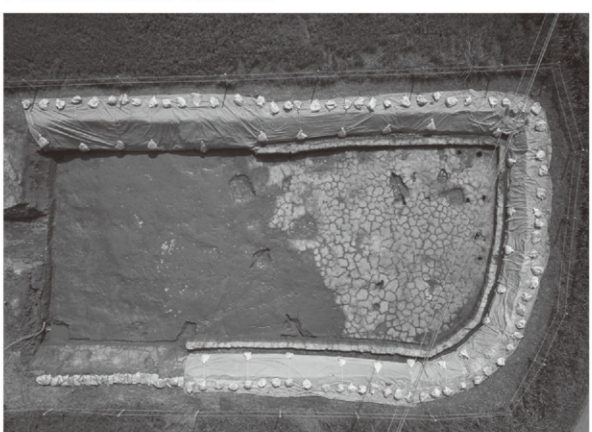
5 潮遺跡竪穴３土層断面



7 潮遺跡竪穴４遺物出土状況

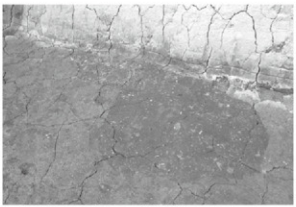
6 潮遺跡自然流路２検出状況

1　山之後遺跡調査地付近上空から南東方向を望む

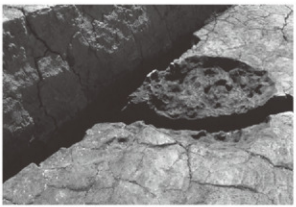


2　山之後遺跡調査区全景（右が北）

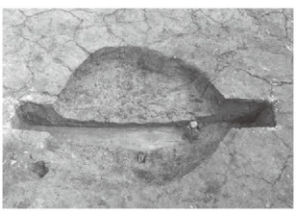
図版六



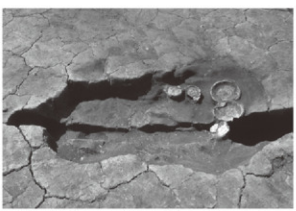
1　山之後遺跡土坑１・２検出状況



2　山之後遺跡土坑１・２完掘状況



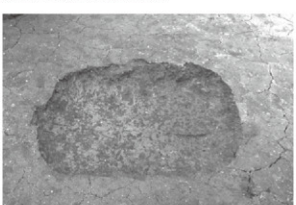
3　山之後遺跡土坑３完掘状況



4　山之後遺跡土坑４遺物出土状況

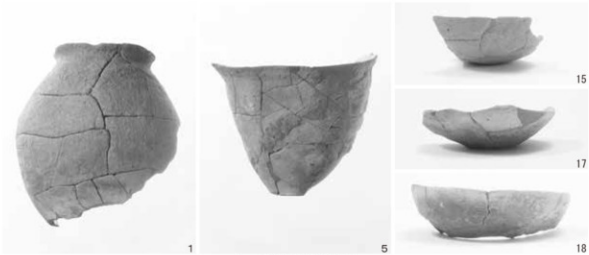
5　山之後遺跡土坑４完掘状況

6　山之後遺跡土坑６完掘状況

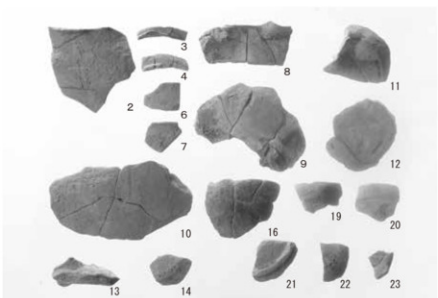


7　山之後遺跡土坑７完掘状況

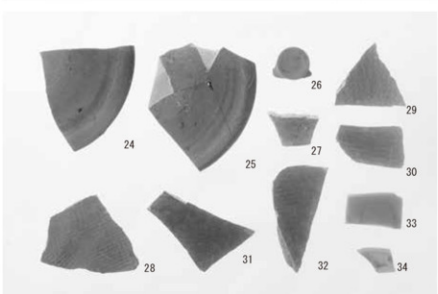
8　山之後遺跡土坑８完掘状況




1　潮遺跡出土遺物 1

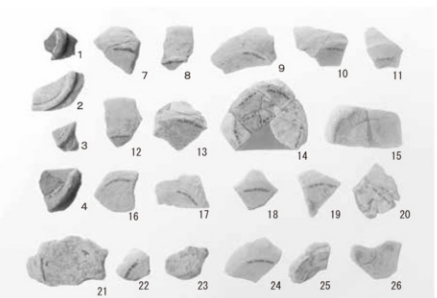



2　潮遺跡出土遺物 2

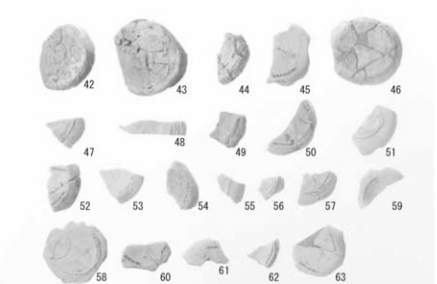



3　潮遺跡出土遺物 3

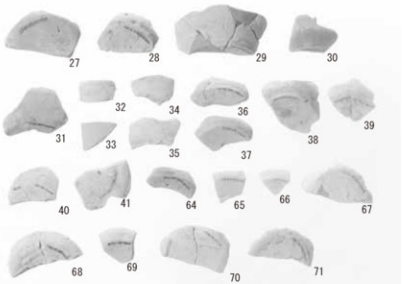
1　山之後遺跡出土遺物 1



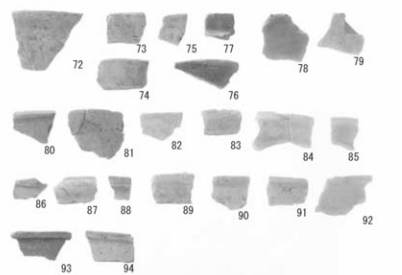

2　山之後遺跡出土遺物 2



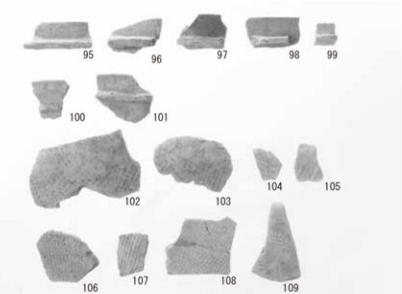

3　山之後遺跡出土遺物 3



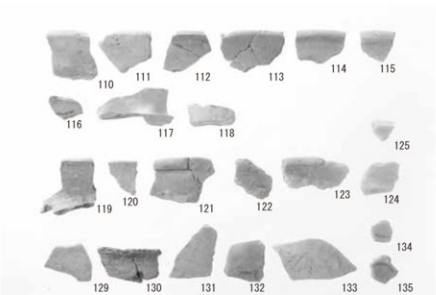

1　山之後遺跡出土遺物 4



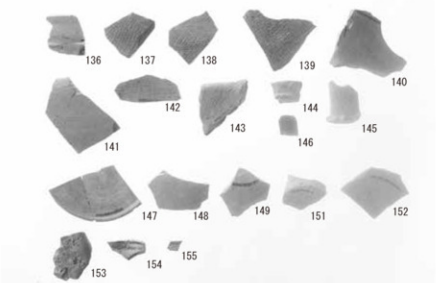

2　山之後遺跡出土遺物 5



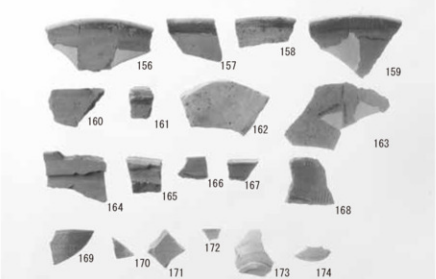

3　山之後遺跡出土遺物 6



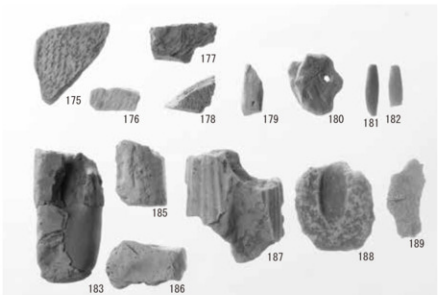

1　山之後遺跡出土遺物７



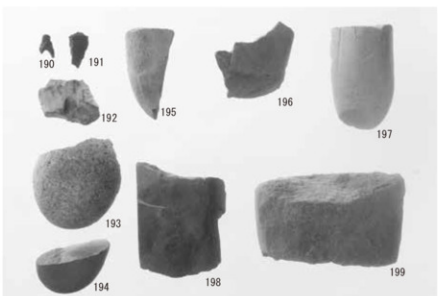

2　山之後遺跡出土遺物８




3　山之後遺跡出土遺物９




1　山之後遺跡出土遺物10




2　山之後遺跡出土遺物11

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | うしおいせき・やまのうしろいせき |
| 書名 | 潮遺跡・山之後遺跡 |
| 副書名 | 一般県道札ノ元佐土原線（潮工区）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ名 | 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第242集 |
| 編著者名 | 加藤 徹 |
| 発行機関 | 宮崎県埋蔵文化財センター |
| 所在地 | 〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂4019番地 |
| 発行年月日 | 2017年 11月 30日 |

| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| うしおいせき<br>潮遺跡 | みやざきけんさいとし<br>宮崎県西都市<br>かのだあざうしお<br>鹿野田字潮<br>ばんち<br>1919番地ほか | 45208 | | 32度<br>04分<br>32秒<br>付近 | 131度<br>23分<br>25秒<br>付近 | 2015.12.14～<br>2016.2.2 | 約400㎡ | 一般県道<br>札ノ元<br>佐土原線<br>（潮工区）<br>道路改良<br>工事 |
| やまのうしろいせき<br>山之後遺跡 | みやざきけんさいとし<br>宮崎県西都市<br>かのだあざやまのうしろ<br>鹿野田字山之後<br>ばんち<br>2961－1番地ほか | 45208 | | 32度<br>04分<br>24秒<br>付近 | 131度<br>23分<br>33秒<br>付近 | 2016.7.4～<br>2016.9.8 | 約300㎡ | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 潮遺跡 | 集落・<br>散布地 | 古墳時代<br>末～古代<br><br>近世以降 | 土坑　2基<br>自然流路・畝穴<br><br>土坑・溝状遺構 | 土師器・須恵器 | 焼成土坑の可能性がある遺構から7世紀前半頃の土師器がまとまって出土。 |
| 山之後遺跡 | 散布地 | 古代<br>中世 | 土坑　8基 | 須恵器・瓦・輪羽口<br>土師質土器・須恵器・陶磁器 | 中世の土器・陶磁器類が出土している他に、古代の官営施設に関係すると思われる瓦や瓦巻き状の成形痕をもつ輪羽口が出土。 |

## 要約


潮遺跡からは、7世紀前半頃の土器を伴った焼成土坑の可能性がある土坑がみつかった。また、それよりも新しいと考えられる畝穴を伴う自然流路を検出した。畝穴の形成要因から調査区の東側まで南側の丘陵が延びていた状況を想定することができる。そして、近世よりも新しい時期に、丘陵などを削平して水田として利用が行われたのではないかと考えられる。

山之後遺跡からは、包含層から古代の遺物のほか、中世の遺構と遺物がみつかっている。古代の遺物には、瓦や瓦巻き状工具によって成形されたと思われる輪の羽口が出土している。また、焼け歪んだような須恵器や断面が二次被熱したような須恵器が出土している。このような状況から、8世紀後半頃には、この付近に瓦や須恵器、そして鉄器を製作するような官営工房のような施設があったことが想定される。続く中世の段階では、12世紀頃と思われる土師質土器を伴った土坑がみつかった。包含層からは13～14世紀頃を中心とする遺物が出土しており、その頃のものと思われる土坑・ピットがみつかった。検出した遺構の埋土や土層の堆積状況から、山之後遺跡では、12世紀頃に一度整地が行われており、その後、15世紀頃に再び造成が行われた可能性が考えられる。付近には中世後半期に日向一円を支配した伊東氏の本城である都於郡城があり、その影響を受けていたと思われる。

このような成果から、この付近は各時期の政治的な影響を強く受けた地域であったと考えられる。

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第 242集

# 潮遺跡・山之後遺跡

一般県道札ノ元佐土原線（潮工区）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2017年　11月

発　行　宮崎県埋蔵文化財センター
〒 880-0212　宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地
TEL　0985(36)1171　　FAX　0985(72)0660
印　刷　K・P クリエイションズ株式会社
〒 880-0803　宮崎市旭 1 丁目 6 － 25
TEL　0985(24)4155　　FAX　0985(24)1512

Saito City

# USHIO Site
# YAMANOUSHIRO Site

The Excavational Investigation Report of Miyazaki Prefectural Archaeological Center
vol.242

2017

Miyazaki Prefectural Archaeological Center